

=====

東海生研 ～ メールマガジン 第160号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

=====

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
  - ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 総会及び第1回セミナー（予告）
  - ☆第2回セミナー（予告）
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 見学会 (4月19日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆平成30年度宇宙航空科学技術推進委託費 (文部科学省)
  - ☆平成30年度 A-STEP 機能検証フェーズ：試験研究タイプ（第1回）(JST)
  - ☆平成30年度 A-STEP 産学共同フェーズ：シーズ育成タイプ (JST)
  - ☆平成30年度 A-STEP 企業主導フェーズ：NexTEP - Bタイプ (JST)
  - ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
-------------------------------

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 総会及び第1回セミナー（予告）

【開催日時】平成30年6月14日（木）14時30分～16時45分

【開催場所】ウインクあいち（愛知県産業労働センター）903会議室

【内容】 総会 14時30分～15時30分

第1回セミナー 15時45分～16時45分

講演：「ゲノム編集による作物育種」～現状・問題点・これから～

講師：名古屋大学大学院生命農学研究科准教授 白武勝裕 氏

【参加】無料、事前申し込み

【情報交流会】参加費有り（事前申し込み）903会議室にて17時～18時30分

.....

☆第2回セミナー（予告）

【開催日時】平成30年9月4日（火）13時30分～16時40分

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター） 1208 & 1209 会議室

【講演】 作物、食品、畜産、水産、林産の各部会に関わる研究成果&実証の講演  
（内容は後日、ご案内します）

【技術相談会】 競争的資金応募等の関する相談会（事前申し込み）

【参加】 無料、事前申し込み

【情報交流会】 参加費有り、事前申し込み、1209 会議室で17時から18時30分

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 ～豊橋市バイオガス発電見学会～

【見学先】 豊橋市上下水道局：

中島処理場・豊橋市バイオマス資源利活用施設整備・運営事業

【開催日時】 平成30年4月19日（木）14：00～16：30

【集合場所】 JR 東海道本線豊橋駅改札出口 13時40分に出発

（アクセス：改札集合後、東口1階タクシー乗場から～約20分）

【講演】 14：00～15：00

「小規模普及型バイオガス発電システムの開発と今後の展開」

豊橋技術科学大学 環境・生命工学系 特任准教授 熱田 洋一 氏

【見学】 15：10～16：30

[1]バイオマス利活用センター [2]中島処理場水処理

【参加】 定員30名 会員優先。 申込締切 4月12日（木）

定員があれば会員外も募集

参加費 無料

但し、豊橋駅からの交通費（タクシー往復など）は、各自折半で負担。

【懇親会】 17：20 三三九（札木／居酒屋）予定。 参加費 3,000円（予定）

（愛知県豊橋市呉服町 75 番地 電話：0532-53-0339）

定員 とりあえず20名

4月12日（木）以降の懇親会追加、キャンセルはできません。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、  
下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下

記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成 30 年度競争的研究資金等について

☆平成 30 年度宇宙航空科学技術推進委託費 (文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/boshu/detail/1401208.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1401208.htm)

分野等：宇宙利用技術創出プログラム（衛星から得られたデータ等の宇宙科学技術を活用し、異分野シーズとの融合による新たな宇宙利用技術に関する研究開発を行うことにより、環境、農業・漁業、防災、スポーツ、地理空間等の様々な分野における実用化につながる、新たな価値を提供する技術の創出を目指す）等。

公募期間：平成 30 年 2 月 16 日～4 月 16 日

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP)：

平成 30 年度 機能検証フェーズ：試験研究タイプ (第 1 回) (JST)

【概要説明】 <https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

【支援対象】 大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するかどうか確認するための試験研究を支援

【採択予定件数】 70 課題程度

【応募申請者】 大学等の研究者

【研究開発期間】 原則 1 年

【研究開発費】 ～ 300 万円、グラント方式

【公募要領】 [https://www.jst.go.jp/mp/file/h30kinou\\_koubo.pdf](https://www.jst.go.jp/mp/file/h30kinou_koubo.pdf)

【公募期間】 平成 30 年 3 月 15 日～平成 30 年 5 月 15 日正午

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP)：

平成 30 年度 産学共同フェーズ：シーズ育成タイプ (JST)

【支援対象】 企業の視点で大学等の研究成果に基づく技術シーズの可能性検証及び実用性検証を行い、中核技術の構築を目指す産学協同の研究開発を支援

【採択予定件数】 20 課題程度

【応募申請者】 開発実施企業と大学等の研究者

【研究開発期間】 2～6 年

【研究開発費】 2,000 万円～5 億円、マッチングファンド方式

【公募要領】 [http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-seeds/h30-a-step-seeds\\_kouboyouryou\\_02.pdf](http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-seeds/h30-a-step-seeds_kouboyouryou_02.pdf)

【公募期間】 平成 30 年 3 月 15 日～平成 30 年 5 月 15 日正午

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP)：

【支援対象】 研究開発型企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援

【採択予定件数】 若干数

【応募申請者】 シーズの発明者・所有者の了承を得た開発実施企業

【研究開発期間】 最長5年

【研究開発費】 ～3億円、マッチングファンド方式、実施料納付

【公募要領】 [http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-nextep-b/h30-a-step-nextep-b\\_kouboyouryou\\_01.pdf](http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-nextep-b/h30-a-step-nextep-b_kouboyouryou_01.pdf)

【公募期間】 平成30年3月15日～平成30年6月8日正午

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

---

◆ 5 ◆ 新技術情報について

---

☆水稲関係

○餅（もち）の柔らかさが持続する水稲新品種（愛知126号）の開発

本品種は、糯米（もちごめ）のデンプンを構成するアミロペクチンの枝が従来品種よりも短く、この品種で造った餅は、柔らかい餅加工品で使用されている「ヒヨクモチ」等と比べて、柔らかさが持続します。また、いもち病や稲縞葉枯れ病に極めて強く、従来品種と収穫期、収量、玄米外観品質が同等です。このような特性を有する本品種は、加工業者にとって魅力的であり、地域特産品を生産することにより生産者にも利益をもたらすものと思われまふ。農研機構との共同開発により、既に品種出願を終え、2019年からは生産者が一般栽培を開始する予定です。

・愛知県農業総合試験場 HP(プレスリリース)：

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/nogyo-keiei/aichimochi126gou.html>

☆獣害対策関係

○ICTを活用した檻（おり）、罠（わな）の遠隔監視・操作システム「クラウドまるみえホカクン」の開発

シカ、サル等が多数生息する地域が拡大し、農作物被害や家屋への侵入などの被害が出ています。三重県農業研究所、鳥羽商船高等専門学校、株式会社アイエスイーは、クラウド上で檻内とその周辺の画像情報を複数の監視員が共有し、スマホ等で同時に多数の檻を遠隔監視し、捕獲操作が可能な技術を開発しました。これにより、檻周辺に出現した獣が大型檻に入り込んだ時に一網打尽に捕獲して、いわゆる「スレ個体」（学習して檻に入らない個体）を生じにくくする多頭捕獲を実現しました。本システムでは、檻に動物が侵入す

るとメールで通知され、クラウド上に動画等が保存され、チャットにより監視員が情報交換しながら遠隔で捕獲操作をすることが可能です。大型檻と本システムを組み合わせ、適正に運用することにより、シカ、サルの地域個体数を効率的に管理できる可能性が生まれました。

- ・農林水産省 HP：ICT を活用した檻・罠の遠隔監視・操作システム「クラウドまるみえホカクン」

[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new\\_tech\\_cultivar/attach/pdf/2017-4.pdf](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/attach/pdf/2017-4.pdf)

- ・農林水産省 HP：地域を守る！先端技術と地域の力を合わせた鳥獣害対策（兵庫県立大学 山端直人氏 作成）

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/committee/symposium/No.06.pdf>

.....

#### 編集後記

4月に入り、新年度がスタートしました。昨年度の成果と反省を踏まえつつ、新たな気持ちで、産学官連携による研究開発と事業化の促進、セミナー等を通じた研究成果の普及、研究成果に関心を有するユーザーと研究者とのマッチング促進等に努めて参りますので、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ところで、最近読んだ本に、保母武彦著「日本の農山村をどう再生するか」（岩波現代文庫、2013年10月発行）があります。著者は、名古屋大学経済学部を卒業し、島根大学教授として、地方財政論・地域経済論などを研究し、農山村（中山間地域）が蘇るためには、どうしたら良いのかを問い続けてきました。

本書の前半では、戦後の農林業・農村政策を概説しており、それらの政策の問題点を指摘しています。後半では、各地の地域活性化の先進的な事例を紹介しながら、「内発的な地域づくり」の重要性を繰り返し述べています。この内発的發展論においては、単発の事業ではなく、しっかりとしたランドデザインを作り、明確な地域發展の総合戦略の中に個々の事業を位置づけることが大切であること、また、新潟県塩沢町石内区のように、スキー場の開設と拡充により、地元の多くの農家が民宿を経営して出稼ぎをしなくて済むようになり、石内地区に進出する外部企業には協力分担金を支払ってもらい、この資金をスキー場の改善や地域活性化事業に活かすなど、プラスのスパイラルを作出して地域を發展させた事例を報告しています。

中山間地域においては、人口減少、少子高齢化が急速に進む中で、内発的發展論を実践していくことが難しくなっている状況にあります。こういう時期にこそ、本書の内発的發展論の考え方を良く咀嚼して、地域社会の持続性、安定化を図っていくために、様々な人材を結集して地域活性化を進めていく必要があるかと思えます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（\*を@に書き換えてください）

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

平成30年5月10日発行

東海生研 ～ メールマガジン 第161号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
  - ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 総会及び第1回セミナー
  - ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (予告)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆平成30年度「食品安全セミナー」 (東海農政局)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆平成29年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業 (うち経営体強化プロジェクト) (追加公募) (農研機構・生研支援センター)
  - ☆平成29年度補正予算 生産性革命に向けた革新的技術開発事業 (追加公募) (農研機構・生研支援センター)
  - ☆平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業のうち現地実証研究委託事業 (第2回公募) (農林水産省 技術会議事務局)
  - ☆海洋資源利用促進技術開発プログラム 海洋情報把握技術開発 (文部科学省)
  - ☆平成30年度 Society5.0 実現化研究拠点支援事業 (文部科学省)
  - ☆平成30年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
  - ☆平成30年度 A-STEP 機能検証フェーズ：試験研究タイプ (第1回) (JST)
  - ☆平成30年度 A-STEP 産学共同フェーズ：シーズ育成タイプ (JST)
  - ☆平成30年度 A-STEP 企業主導フェーズ：NexTEP - A タイプ (JST)
  - ☆平成30年度 A-STEP 企業主導フェーズ：NexTEP - B タイプ (JST)
  - ☆平成30年度 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) 共創プラットフォーム育成型 (JST)
  - ☆平成30年度 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) オープンイノベーション機構連携型 (JST)
  - ☆平成30年度大学発新産業創出プログラム (START) (JST) 社会還元加速プログラム (SCORE)
  - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP (JST) 未来創造ベンチャータイプ
  - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
  - ☆平成30年度ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業 (NEDO)

- ☆バイオマスエネルギーの地域自立システム化実証事業／バイオマスエネルギー導入に係る技術指針・導入要件の策定に関する検討、事業性評価（FS）、実証事業及び技術開発事業 (NEDO)
- ☆平成30年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆1◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 総会及び第1回セミナー

【開催日時】 平成30年6月14日（木）受付開始：14時  
14時30分～16時45分

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）903会議室  
アクセス：<http://www.winc-aichi.jp/access/>

【内容】 総会 14時30分～15時30分  
第1回セミナー 15時45分～16時45分  
講演：「ゲノム編集による作物育種～現状・問題点・これから～」  
講師：名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授 白武勝裕 氏

【参加】 参加費無料、事前申し込み

【情報交流会】 参加費有り（3000円）事前申し込み  
903会議室にて17時～18時30分

【申し込み】 お申し込みについては、下記の項目をご記入の上、6月4日までに、FAX、電子メール、又は郵送にて下記宛てにお送り下さい。

所属、氏名

総会、セミナー、交流会のうち、参加されるイベント名

送付先：FAX 052-789-4586

電子メール bio-npo \* s4.dion.ne.jp \* を@に代えてお送り下さい。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学農学国際教育研究センター気付  
NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー（予告）

【開催日時】 平成30年9月4日（火）13時30分～17時

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）1208&1209会議室

【講演】（講演順は今後変更があるかもしれません）

第1会場（1208会議室）

○水産部会 13:30～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○作物部会 14:30～15:30

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種『なるみ』等のナシ品種育成の現状」

農研機構 果樹茶業研究部門 品種育成・病虫害研究領域 上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 15:40～16:40

「肉牛生産における SPAY（卵巣摘出術）のメリットと活用事例」

モーモークリニック 大久保幸弘 氏

第2会場（1209会議室）

○林産部会 13:30～14:30

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 助教 山内恒生 氏

○食品部会 14:30～15:30

「果実（柿等の規格外品）のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の開発」

岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏

【技術相談】 案件の受付をさせていただき、後日、対応させていただきます。

【参加】 無料、事前申し込み

【情報交流会】 参加費有り（2500円）、事前申し込み

1209会議室で17時から18時30分

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー」

（東海農政局）

○5月17日（木）13時30分～16時

【場所】 東海農政局第1会議室（名古屋市中区）

第一部 「食品安全と行政の取組」 東海農政局 消費・安全部長 吉田竹志 氏

第二部 「知っていますか食品表示」 講師 東海農政局 職員

【申込期限】 5月15日（火）17時まで

【開催案内】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/180416.html>

【参加】 参加費無料、定員40名になり次第締め切られます。

【参加申込】 上記 URL から FAX 又はインターネットでお申込み下さい。

以下の第一部の演題、講師は、上記と同じ。

○6月27日（水）13時30分～16時

第二部 「農薬の安全性について」 東海農政局 消費・安全部表示・規格課 職員

○7月

第二部 「健康食品とサプリメントの正しい知識（仮）」 講師 外部講師を予定



○8月  
第二部 「植物防疫、動物検疫の取組について（仮）」 講師 外部講師を予定

○9月  
第二部 「輸入食品の安全性について（仮）」 講師 外部講師を予定

10月～3月の予定は下記 URL をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/180322.html>

【お問い合わせ】消費・安全部生活課 担当者：三岡様、森本様  
代表：052-201-7271(内線 2801)  
ダイヤルイン：052-223-4651  
FAX 番号：052-220-1362

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記の URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成30年度競争的研究資金等について

☆平成29年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）  
（追加公募） （農研機構・生研支援センター）

[http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/keiei/koubo\\_h29/tsuika\\_koubo.html](http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/keiei/koubo_h29/tsuika_koubo.html)

分野等：

1. 超省力安定多収直播栽培技術の開発
2. 国際競争力強化に向けた生鮮野菜の容器包装技術の開発

公募期間：平成30年4月20日～6月19日

.....

☆平成29年度補正予算 生産性革命に向けた革新的技術開発事業（追加公募）  
（農研機構・生研支援センター）

[http://www.naro.affrc.go.jp/brain/productivity/koubo/tuika\\_koubo.html](http://www.naro.affrc.go.jp/brain/productivity/koubo/tuika_koubo.html)

分野等：レーザーセンシング技術等を活用した森林路網作設支援システムの開発

公募期間：平成30年4月20日～6月19日

.....

☆平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業のうち現地実証研究委託事業（第2回公募）（農林水産省 技術会議事務局）

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/sentan\\_gijyutu/H30koubo\\_genchi\\_2ji.htm](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/sentan_gijyutu/H30koubo_genchi_2ji.htm)

分野等：

1. 復旧水田における先端技術導入による水田営農の高度安定化に向けた実証研究（岩手県・農業分野）
2. きゅうり産地の復興に向けた低コスト安定生産流通技術体系の実証研究（岩手県・農業分野）

公募期間：平成30年4月26日～5月17日

.....

☆海洋資源利用促進技術開発プログラム 海洋情報把握技術開発（文部科学省）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/boshu/detail/1403913.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1403913.htm)

分野等：

1. 海洋酸性化・地球温暖化に関わる情報取得のための技術開発
2. 生物多様性に関わる情報取得のための技術開発
3. マイクロプラスチックに関わる情報取得のための技術開発

公募期間：平成30年4月19日～5月18日

.....

☆平成30年度 Society5.0 実現化研究拠点支援事業（文部科学省）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/boshu/detail/1403785.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1403785.htm)

分野等：学長等のリーダーシップの下、情報科学技術を基盤として事業や学内組織の垣根を超えて研究成果を統合し、社会実装に向けた取組を加速することにより、Society5.0（IoT、ビッグデータ、人工知能等のイノベーションをあらゆる産業や社会生活に活用することで、様々な社会課題が解決される社会）の実現を目指す大学等の先端中核拠点を支援する。

公募期間：平成30年5月1日～6月18日

.....

☆平成30年度戦略的基盤技術高度化支援事業（経済産業省）

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2018/180316mono.htm>

分野等：1. デザイン開発に係る技術、2. 情報処理に係る技術、3. 精密加工に係る技術、4. 製造環境に係る技術、5. 接合・実装に係る技術、6. 立体造形に係る技術、7. 表面処理に係る技術、8. 機械制御に係る技術、9. 複合・新機能材料に係る技術、10. 材料製造プロセスに係る技術、11. バイオに係る技術、12. 測定計測に係る技術

公募期間：平成30年3月16日～5月22日

.....

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）（JST）

平成30年度 機能検証フェーズ：試験研究タイプ（第1回）

【概要説明】 <https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

【支援対象】 大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するかどうか確認するための試験研究を支援

【採択予定件数】 70 課題程度

【応募申請者】 大学等の研究者

【研究開発期間】 原則1年

【研究開発費】 ～300万円、グラント方式

【公募要領】 [https://www.jst.go.jp/mp/file/h30kinou\\_koubo.pdf](https://www.jst.go.jp/mp/file/h30kinou_koubo.pdf)

【公募期間】 平成30年3月15日～平成30年5月15日正午

.....

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

平成30年度 産学共同フェーズ：シーズ育成タイプ

【支援対象】 企業の視点で大学等の研究成果に基づく技術シーズの可能性検証及び実用性検証を行い、中核技術の構築を目指す産学協同の研究開発を支援

【採択予定件数】 20 課題程度

【応募申請者】 開発実施企業と大学等の研究者

【研究開発期間】 2～6年

【研究開発費】 2,000万円～5億円、マッチングファンド方式

【公募要領】 [http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-seeds/h30-a-step-seeds\\_kouboyouryou\\_02.pdf](http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-seeds/h30-a-step-seeds_kouboyouryou_02.pdf)

【公募期間】 平成30年3月15日～平成30年5月15日正午

.....

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

平成30年度 企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、平成31年3月29日（第3回）

.....

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

平成30年度 企業主導フェーズ：NexTEP-B タイプ

【支援対象】 研究開発型企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援

【採択予定件数】 若干数

【応募申請者】 シーズの発明者・所有者の了承を得た開発実施企業

【研究開発期間】 最長5年

【研究開発費】 ～3億円、マッチングファンド方式、実施料納付

【公募要領】 [http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-nextep-b/h30-a-step-nextep-b\\_kouboyouryou\\_01.pdf](http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/files/h30-nextep-b/h30-a-step-nextep-b_kouboyouryou_01.pdf)

【公募期間】平成30年3月15日～平成30年6月8日正午

.....  
☆平成30年度 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) (JST)  
共創プラットフォーム育成型

<http://www.jst.go.jp/opera/koubo.html>

分野等：本格実施可能性を検討するフィージビリティスタディー (FS) フェーズ、  
およびプロジェクトを本格的に推進する本格実施フェーズを設定し、非競  
争領域の産学共同研究、博士課程学生等の人材育成及び産学連携システム  
改革を一体的に推進する。

公募期間：平成30年3月23日～5月31日

.....  
☆平成30年度 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) (JST)  
オープンイノベーション機構連携型

<http://www.jst.go.jp/opera/koubo.html>

分野等：文部科学省の「オープンイノベーション機構の整備事業」を持続的に機能  
させていくための基盤となる非競争領域の産学共同研究、博士課程学生等  
の人材育成及び産学連携システム改革を一体的に推進する。

公募期間：平成30年4月12日～6月22日

.....  
☆平成30年度大学発新産業創出プログラム (START) 社会還元加速プログラム (SCORE)  
(JST)

<http://www.jst.go.jp/start/score/jigyoindex.html>

分野等：研究者やアントレプレナー志望者等が、リーンスタートアップ手法等のベン  
チャー起業・成長に有益な知識を実践的に学習し、研究開発成果の事業  
化を通じた社会還元を加速する。

公募期間：平成30年4月16日～6月5日

.....  
☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴  
う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日 (第1回)、11月30日 (第2回)、  
平成31年3月29日 (第3回)

.....  
☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴  
う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日 (第1回)、11月30日 (第2回)、

平成31年3月29日（第3回）

.....  
☆平成30年度ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業 (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100176.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100176.html)

分野等：

1. 太陽光発電、風力発電、水力発電、地熱発電、バイオマス利用、太陽熱利用、その他未利用エネルギー分野。
2. 再生可能エネルギーの普及、エネルギー源の多様化に資する新規技術（燃料電池、蓄電池、エネルギーマネジメントシステム等）。

公募期間：平成30年4月12日～5月24日

.....  
☆「バイオマスエネルギーの地域自立システム化」実証事業／バイオマスエネルギー導入に係る技術指針・導入要件の策定に関する検討、事業性評価（FS）、実証事業及び技術開発事業 (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/FF2\\_100223.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/FF2_100223.html)

分野等：

1. バイオマスエネルギー導入に係る技術指針・導入要件の策定に関する検討（委託事業）
- 2-1. 地域自立システム化実証事業/事業性評価（FS）（委託事業）
- 2-2. 地域自立システム化実証事業/実証事業（助成事業）
3. 地域自立システム化技術開発事業（助成事業）

公募期間：平成30年4月27日～5月28日

.....  
☆平成30年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム（I-Challenge!）（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合（ICT×〇〇）をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC（Proof of Concept：概念検証）に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成30年4月12日～平成31年3月29日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

---

◆ 5 ◆ 新技術情報について

---

☆野菜関係

○受粉しなくても実がなるトマトをゲノム編集で開発

～ DNA を切らずに書き換える新たなゲノム編集技術を作物に応用～

筑波大学、神戸大学、名城大学は共同で、ゲノム編集技術を用い、受粉しなくても実となる「単為結果性」を持つトマトを開発しました。本成果では、神戸大が開発した DNA を切らずに書き換えるという新たなゲノム編集技術「Target-AID」が作物に応用されました。この成果の単為結果性トマトでは授粉作業や着果促進剤が不要となり、作業の効率化や低コスト化が期待されます。

・農林水産技術会議 HP : 「2017年農業技術10大ニュース」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/171220.html>

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/171220-5.pdf>

○容易に設置可能で省力的なキャベツセル成型苗の底面給水育苗技術

本成果は、滋賀県農業技術振興センターが開発したものです。セル成型苗の育苗は、特に夏季の高温条件下においては、従来の手灌水では労力を要し、生育ムラが生じやすいということがありました。しかし、本研究成果により、複数のシートを重ねた底面給水床への自動灌水により、省力的で灌水ムラの少ないセル成型苗の育苗が可能となり、水田野菜に取り組む初心者にもできるようになりました。この技術は、水田野菜（キャベツなど）の規模拡大等に大いに役立つものと思われまます。

・農林水産技術会議 HP : 「最新農業技術・品種2017」

[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new\\_tech\\_cultivar/attach/pdf/2017-39.pdf](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/attach/pdf/2017-39.pdf)

☆森林・林業関係

○桜の害虫防除に貢献！ 微生物防除剤「バイオリサ・カミキリ」が桜に適用拡大

クビアカツヤカミキリは、最近我が国に侵入した外来生物です。モモ、スモモなどに被害を及ぼす農業害虫ですが、各地の桜の木にも被害を及ぼしつつあります。平成29年7月12日時点で、東海地域では愛知県のみで発生（平成24年以降）していますが、近隣の奈良県、大阪府でも発生しており、東海地域での今後の発生状況に注意が必要です。各地の桜の名所を本害虫から守る生物的防除手段が、本剤の登録により増えました。

・(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 HP(プレスリリース) :

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/press/2018/20180416/documents/20180416press.pdf>

.....  
編集後記

大型連休が過ぎ、樹々の緑が一層濃くなってきました。先月号からの間、朝鮮半島の板門店で南北首脳会議が行われ、南北融和ムードが一気に盛り上がりました。これから本番の米朝首脳会議が来月にも行われますが、非核化と拉致家族の帰還、関係改善に向けた伸展を期待したいものです。昨年は一触即発の危機感がありましたが、平和に暮らせる有難みを感じます。

ところで、最近読んだ本に、伊藤穰一著「教養としてのテクノロジー ～日本人はどう変わるべきなのか～」(NHK 出版新書、2018 年 3 月発行)があります。著者は、米国のマサチューセッツ工科大学(MIT)のメディアラボの所長をしており、そのような立場で様々な人と触れあう中で、AI、仮想通貨、ブロックチェーン、自動運転などのテクノロジーについての見識を養い、広い視野からの思いを日米の比較を織り交ぜながら述べています。日本の社会経済についても、東京オリンピックを境に変革の時期に入っており、日本人はどう変わるべきかといった大所高所からの思いを述べています。少子高齢化、巨額の財政赤字、貧富の差の拡大など、社会的閉塞感が広がる中で、著者のように別の角度から技術や社会を俯瞰し、新しいあり方を考えてみるのも良いのではないかと思います。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 《メールマガジンに関するお問い合わせは》＝＝＝＝＝＝＝＝＝

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>

=====

東海生研 ～ メールマガジン 第162号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

=====

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
  - ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 総会及び第1回セミナー
  - ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (予告)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆平成30年度「食品安全セミナー」 (東海農政局)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆平成29年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業 (うち経営体強化プロジェクト) (追加公募) (農研機構・生研支援センター)
  - ☆平成29年度補正予算 生産性革命に向けた革新的技術開発事業 (追加公募) (農研機構・生研支援センター)
  - ☆平成30年度 Society5.0 実現化研究拠点支援事業 (文部科学省)
  - ☆平成30年度 CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業(二次公募) (環境省)
  - ☆平成30年度 A-STEP 企業主導フェーズ: NexTEP - A タイプ (JST)
  - ☆平成30年度 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) オープンイノベーション機構連携型 (JST)
  - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP (JST) 未来創造ベンチャータイプ
  - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
  - ☆植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発/スマートセル関連技術実装 推進に向けて解決すべき新規課題の検討 (NEDO)
  - ☆平成30年度 NEDO 先導研究プログラム/未踏チャレンジ2050 (NEDO)
  - ☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) 独創的な人向け 特別枠「inovation」プログラム ICT 技術開発課題への挑戦者の公募(総務省)
  - ☆平成30年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)
  - ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*



◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 総会及び第1回セミナー

【開催日時】平成30年6月14日（木）受付開始：14時

14時30分～16時45分

【開催場所】ウイंकあいち（愛知県産業労働センター）903会議室

アクセス：<http://www.winc-aichi.jp/access/>

【内容】 総会 14時30分～15時30分

第1回セミナー 15時45分～16時45分

講演：「ゲノム編集による作物育種～現状・問題点・これから～」

講師：名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授 白武勝裕 氏

（東海生研ブログに解説がございます。[http://blog.livedoor.jp/biotech\\_tokai\\_blog/](http://blog.livedoor.jp/biotech_tokai_blog/)）

【参加】参加費無料、事前申し込み

【情報交流会】参加費有り（3000円）事前申し込み

903会議室にて17時～18時30分

【申し込み】お申し込みについては、下記の東海生研ホームページのURLから申込書を取り出し、各項目をご記入の上、6月4日までに、FAX、電子メール、又は郵送にて下記宛てにお送り下さい。

URL：<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2040>

送付先：FAX 052-789-4586

電子メール bio-npo \* s4.dion.ne.jp \* を@に代えてお送り下さい。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学農学国際教育研究センター気付

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー

【開催日時】平成30年9月4日（火）13時30分～17時

【開催場所】ウイंकあいち（愛知県産業労働センター）1208&1209会議室

【講演】

第1会場（1208会議室）

○水産部会 13:30～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○作物部会 14:30～15:30

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種『なるみ』等のナシ品種育成の現状」

農研機構 果樹茶業研究部門 品種育成・病虫害研究領域 上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 15:40～16:40

「肉牛生産における SPAY（卵巣摘出術）のメリットと活用事例」

モーモークリニック 大久保幸弘 氏

第2会場（1209会議室）

○林産部会 13:30～14:30

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 助教 山内恒生 氏

○食品部会 14:30～15:30

「果実（柿等の規格外品）のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の開発」

岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏

【技術相談】 案件の受付をさせていただき、後日、対応させていただきます。

【参加】 無料、事前申し込み

【情報交流会】 参加費有り（2500円）、事前申し込み

1209会議室で17時から18時30分

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー」

（東海農政局）

○6月27日（水）13時30分～16時

【場所】 東海農政局第1会議室（1階）（名古屋市中区三の丸1-2-2）

【主催】 東海農政局

第一部 「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 消費・安全調整官 田鎖 武 氏

第二部 「農薬の安全性について～農薬の安全確保と適性使用について～」

東海農政局 消費・安全部 安全管理課長 春日井健司 氏

【申込期限】 6月25日 17時まで

【開催案内】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/180528.html>

【参加】 参加費無料、定員40名になり次第締め切られます。

【参加申込】 上記 URL から FAX 又はインターネットでお申込み下さい。

以下の第一部の演題、講師は、上記と同じ。

○7月25日（水）

【場所】 東海農政局第1会議室（名古屋市中区三の丸1-2-2）

【主催】 東海農政局

第二部 「健康食品とサプリメントの正しい知識（仮）」 講師 外部講師を予定

○8月

第二部 「植物防疫、動物検疫の取組について（仮）」 講師 外部講師を予定

○9月

第二部 「輸入食品の安全性について（仮）」 講師 外部講師を予定

10月～3月の予定は下記 URL をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/180322.html>

【お問い合わせ】消費・安全部生活課 担当者：三岡様、森本様  
代表：052-201-7271(内線 2801)  
ダイヤルイン：052-223-4651  
FAX 番号：052-220-1362

.....

☆平成29年度「食料・農業・農村白書」「食育白書」「森林・林業白書」「水産白書」及び  
「食料支給率・食料自給率」に関する東海ブロック説明会

【開催日時】平成30年6月27日(水) 12:30開場  
【開催場所】名古屋能楽堂会議室 (名古屋市中区三の丸1-1-1)  
会場には有料駐車場がありますが、混雑が予想されますので、公共交通機関  
をご利用下さい。

【開催案内】東海農政局HP：[http://www.maff.go.jp/tokai/press/kikaku/180601\\_18.html](http://www.maff.go.jp/tokai/press/kikaku/180601_18.html)

【説明内容及び時間】

- (1) 食料自給率・食料自給力 (13:00～13:20)
- (2) 食料・農業・農村白書 (13:30～14:15)
- (3) 食育白書 (14:25～15:10)
- (4) 森林・林業白書 (15:20～16:05)
- (5) 水産白書 (16:15～17:00)

お聞きになりたい内容の時間に合わせてご来場下さい。

【募集人数】各80名 申込多数によりご参加いただけない場合のみ連絡があります。

【参加申込み】申込期限は6月20日(水)

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内  
をご覧ください。

.....

☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 6月研究会

【開催日時】平成30年6月28日(木) 午後2時から5時  
【開催場所】名古屋市市民活動推進センター 研修室  
名古屋市中区栄三丁目18番1号  
ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階 (052-228-8039)

【講師】

14時～15時20分

・「粗バイオディーゼル燃料の精製技術」

名古屋大学 名誉教授 山根恒夫 氏

15時30分～17時

・「丸太燃料が世界を変える」

レッツ株式会社 代表取締役 川島英雄 氏

【会費】 会員 無料 会員以外 1,000 円 (学生 500 円)

【懇親会費】 講師を囲んでの交流会を予定しています。(自由参加)

会費 3,000 円 場所: 新栄 うお浜 (会場へはタクシー乗合せ)

【お申込み】 下記事項をご記入のうえ、下記メール宛てに件名を添えてお送り下さい。

CRN事務局行き E-mail: gt-keisoku@re.commufa.jp

「6月28日(木)のCRN [研究会例会]」

研究会 出席 又は 欠席

懇親会 出席 又は 欠席

所属: 氏名:

### ◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

### ◆ 4 ◆ 平成30年度競争的研究資金等について

☆平成29年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)  
(追加公募) (農研機構・生研支援センター)

[http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/keiei/koubo\\_h29/tsuika\\_koubo.html](http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/keiei/koubo_h29/tsuika_koubo.html)

分野等:

1. 超省力安定多収直播栽培技術の開発
2. 国際競争力強化に向けた生鮮野菜の容器包装技術の開発

公募期間: 平成30年4月20日～6月19日

☆平成29年度補正予算 生産性革命に向けた革新的技術開発事業(追加公募)  
(農研機構・生研支援センター)

[http://www.naro.affrc.go.jp/brain/productivity/koubo/tuika\\_koubo.html](http://www.naro.affrc.go.jp/brain/productivity/koubo/tuika_koubo.html)

分野等: レーザーセンシング技術等を活用した森林路網作設支援システムの開発

公募期間: 平成30年4月20日～6月19日

☆平成30年度 Society5.0 実現化研究拠点支援事業 (文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/boshu/detail/1403785.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1403785.htm)

分野等：学長等のリーダーシップの下、情報科学技術を基盤として事業や学内組織の垣根を超えて研究成果を統合し、社会実装に向けた取組を加速することにより、Society5.0（IoT、ビッグデータ、人工知能等のイノベーションをあらゆる産業や社会生活に活用することで、様々な社会課題が解決される社会）の実現を目指す大学等の先端中核拠点を支援する。

公募期間：平成30年5月1日～6月18日

.....  
☆平成30年度 CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業(二次公募) (環境省)

[http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz\\_local/30\\_a43\\_1/30co2.html](http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local/30_a43_1/30co2.html)

分野等：

1. 交通低炭素化技術開発分野
2. 建築物等低炭素化技術開発分野
3. 再生可能エネルギー低炭素化技術開発分野
4. バイオマス・循環資源低炭素化技術開発分野
5. 社会システム革新低炭素化技術開発分野

公募期間：平成30年5月18日～6月18日

.....  
☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

平成30年度 企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、平成31年3月29日（第3回）

.....  
☆平成30年度 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA) (JST)

オープンイノベーション機構連携型

<http://www.jst.go.jp/opera/koubo.html>

分野等：文部科学省の「オープンイノベーション機構の整備事業」を持続的に機能させていくための基盤となる非競争領域の産学共同研究、博士課程学生等の人材育成及び産学連携システム改革を一体的に推進する。

公募期間：平成30年4月12日～6月22日

.....  
☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、平成31年3月29日（第3回）

.....  
☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、平成31年3月29日（第3回）

.....  
☆植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発/スマートセル関連技術実装推進に向けて解決すべき新規課題の検討 (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/EF2\\_100128.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/EF2_100128.html)

分野等：NEDOでは、植物や微生物の細胞が持つ物質生産能力を人工的に最大限引き出した「スマートセル」を構築し、化学合成では生産が難しい有用物質の創製、または従来法の生産性を凌駕することを目的に、基盤技術及び特定の生産物質における実用化技術の研究開発プロジェクトを推進している。将来的に持続可能な社会の構築に資するスマートセルによるものづくり「スマートセルインダストリー」の実現を目指している。本事業ではスマートセル技術の社会実装推進に向けて、今後さらに解決が必要となる周辺技術やスマートセル技術の実用化・事業化における検討課題を明らかにするための先導研究提案を募集する。

公募期間：平成30年5月22日～6月21日

.....  
☆平成30年度 NEDO 先導研究プログラム/未踏チャレンジ2050 (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100183.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100183.html)

分野等：CO2を有効活用し化学品を得る技術分野（1. Net Zero Emission (NZE) を実現するCO2有効活用技術、2. Direct Air Capture (DAC) を実現する複合技術）

公募期間：平成30年5月28日～7月12日

.....  
☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）独創的な人向け特別枠「innovation」プログラム ICT技術開発課題への挑戦者の公募 (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000245.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000245.html)

分野等：ICT分野において破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスなICT研究開発課題への挑戦を支援する。

公募期間：平成30年5月22日～7月20日

.....  
☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの

融合（ICT×〇〇）をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC（Proof of Concept：概念検証）に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成30年4月12日～平成31年3月29日

.....

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆野菜関係

○カットやスライス用に適したトマト「サンドバル」の特性を活かす栽培技術の開発

愛知県農業総合試験場が育成したトマト品種「サンドバル」は、子室数が多くスライスした時にゼリー部が落ちにくく、果汁が液だれしにくいいため、サンドイッチやサラダなどの業務用需要に向いています（平成26年育成）。また、単為結果性で、生産者は着果のための労力（植物ホルモン処理）やコスト（マルハナバチ導入）を削減できます。平成29年の愛知県農業総合試験場の10大成果の1つとして、「サンドバル」の特性を活かす栽培技術の開発が挙げられています。

- ・愛知県農業総合試験場10大成果：<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/nogyo-keici/2017seika.html>
- ・「サンドバルの栽培指針」：<http://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/209828.pdf>
- ・愛知県 HP：トマト「サンドバル」 <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/nososi/0000070156.html>

☆果樹関係

○自家受粉が可能なニホンナシ新品種「なるみ」

ニホンナシの主要品種は、自家不和合性で他の品種の花粉が受粉しないと結実しません。このため、他の花粉を人工受粉する必要があるため、受粉時期には多くの労力を要し、農家の高齢化の下で、その改善が求められています。農研機構の果樹研究所（現在、果樹茶業研究部門）では、自家和合性のニホンナシ新品種「なるみ」を育成しました。

この研究成果については、NPO 法人東海生研の平成30年度第2回セミナー（9月4日）で、育成者の齋藤寿広をお招きして講演をしていただきますので、本件に関心のある方は是非、ご参加下さい。

- ・農研機構プレスリリース：自家受粉が可能なニホンナシ新品種「なるみ」  
[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/fruit/060153.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/fruit/060153.html)
- ・NPO 法人東海生研第2回セミナー：[http://blog.livedoor.jp/biotech\\_tokai\\_blog/](http://blog.livedoor.jp/biotech_tokai_blog/)

☆森林・林業関係

○木質バイオマス発電における燃料チップ買取価格と発電規模の関係を解明

我が国では、再生可能エネルギー固定価格買取制度の下で、各地で木質バイオマス発電の建設計画が進んでいます。森林総合研究所は、研究成果として、実際に調査したデータからモデルを作成し、バイオマス発電事業の収益と支出が等しくなる損益分岐点を求め、損益分岐点にある燃料買取価格と発電規模の関係が分かる図を作成しました。この結果を活用すると、森林の未利用バイオマスの供給コストに関する限界の一つの目安が得られます。

・森林総合研究所 HP：研究最前線 2015年紹介分

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/research/saizensen/2015/20150610-01.html>

・一般社団法人日本エネルギー学会 HP：論文「再生可能エネルギー固定価格買取制度を利用した木質バイオマス発電事業における原料調達価格と損益分岐点の関係」日本エネルギー学会誌 Vol.94 No.3 p.311-320 (2015) <http://doi.org/10.3775/jie.94.311>

編集後記

6月になりました。暑い日が続いていますので、体調管理に気を付けたいと思います。米朝首脳会談が6月12日に行われる予定ですが、融和が進んで一層の平和な関係が進むことが望まれます。

ところで、本屋さんで全身が緑色の奇抜な服を着て、捕虫網を手にしたバッタ男の表紙の本を思わず手に取りました。昆虫学者（バッタ博士）の前野 ウルド 浩太郎著「バッタを倒しにアフリカへ」（光文社 新書）です。ウルドとはミドルネームで、「〇〇の子孫」という意味だそうで、モーリタニアにある国立サバクトビバッタ研究所長より授かった名前だそうです。今、日本ではバッタやチョウなどが見られる季節ですが、アフリカの半砂漠地帯では、しばしばサバクトビバッタによって農作物を食い荒らされて大きな被害を受けるようです。そんなアフリカの地で自分の夢を叶え、アフリカを救うために奮闘する著者の生き方に自然な感激を覚えました。さらに著者は、ユーモアたっぷりに語って、フィールドでの研究の重要性や魅力についても教えてくれます。そして、現場での観察や閃きが、重要な研究テーマに繋がることを語ってくれており、研究者だけではなく、多くの人に仕事でのヒントが得られる事を示してくれていると思います。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（\*を@に書き換えてください）

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>



平成30年7月10日発行

東海生研 ～ メールマガジン 第163号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
  - ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー
  - ☆ NPO 法人東海生研の行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆平成30年度「食品安全セミナー」 (東海農政局)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業(第3回公募) (農林水産省)
  - ☆平成30年度 A-STEP 企業主導フェーズ: NexTEP - A タイプ (JST)
  - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP (JST)
    - 未来創造ベンチャータイプ
    - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
    - ☆平成30年度 未来社会創造事業(探索加速型・大規模プロジェクト型) (JST)
    - ☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) 独創的な人向け
      - 特別枠「inovation」プログラム ICT 技術開発課題への挑戦者の公募(総務省)
      - ☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)
    - ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆1◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー

【開催日時】平成30年9月4日(火) 13時30分～17時

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1208&1209会議室

【講演】

第1会場(1208会議室)

○水産部会 13:30～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○作物部会 14:30～15:30

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種『なるみ』等のナシ品種育成の現状」

農研機構 果樹茶業研究部門 品種育成・病害虫研究領域 上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 15:40～16:40

「肉牛生産における SPAY（卵巣摘出術）のメリットと活用事例」

モーモークリニック 大久保幸弘 氏

第2会場（1209会議室）

○林産部会 13:30～14:30

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 助教 山内恒生 氏

○食品部会 14:30～15:30

「果実（柿等の規格外品）のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の開発」

岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏

【技術相談】 案件の受付をさせていただき、後日、対応させていただきます。

【参加】 無料、事前申し込み

【情報交流会】 参加費有り（2500円）、事前申し込み

1209会議室で17時から18時30分

.....

☆東海生研行事予定

・第3回セミナー

開催日時：10月31日(水)13:30～17:00

開催場所：ウインクあいち

・アグリビジネス創出フェア in 東海

開催日時：平成31年1月29日～30日

開催場所：ウインクあいち

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー」

(東海農政局)

○7月25日(水) 13時30分～16時

【場所】 東海農政局1階 第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】 東海農政局

【申込期限】 7月23日 17時まで

【開催案内】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/180703.html>

第一部 「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 消費生活課長 田中繁世 氏

第二部 「植物防疫・動物検疫の取組について」

名古屋植物防所 職員  
動物検疫所中部空港支所 職員

【参加】参加費無料、定員40名になり次第締め切られます。

【参加申込】上記URLからFAX又はインターネットでお申込み下さい。

【お問い合わせ】消費・安全部消費生活課 担当者：森（啓）、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線2801)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX番号：052-220-1362

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内をご覧ください。

.....  
☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 7月研究会

【開催日時】平成30年7月19日(木) 午後2時から5時

【開催場所】名古屋市市民活動推進センター 研修室

名古屋市中区栄三丁目18番1号

ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階 (052-228-8039)

【講演】

14時～15時20分

・「次世代の永久使用は、危機的な状況」

河田フェザー株式会社執行役員 黒田 健 氏

15時30分～17時

・「なたね油を通して、今の若者たちへ生き方を伝えたい」

株式会社 ほうろく屋 代表取締役 杉崎 学 氏

<https://hourokuya.com/interview/>

【会費】会員 無料 会員以外 1,000円 (学生 500円)

【懇親会費】講師を囲んでの交流会を予定しています。(自由参加)

会費 3,000円 場所：中国料理シルクロード上前津店

(会場へはタクシー乗合せ)

【お申込み】下記事項をご記入のうえ、下記メール宛てに件名を添えてお送り下さい。

CRN事務局行き E-mail：gt-keisoku@re.commufa.jp

件名：「7月19日(木)のCRN [研究会例会]」

研究会 出席 又は 欠席

懇親会 出席 又は 欠席

所属： 氏名：

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成30年度競争的研究資金等について

☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業（第3回公募） 農林水産省（農村振興局）

[http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/180702\\_7.html](http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/180702_7.html)

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：平成30年7月2日～30日

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） (JST)

平成30年度 企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、  
平成31年3月29日（第3回）

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、  
平成31年3月29日（第3回）

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴

う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年4月2日～7月31日（第1回）、11月30日（第2回）、  
平成31年3月29日（第3回）

.....  
☆平成30年度 未来社会創造事業（探索加速型・大規模プロジェクト型）（JST）

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/open-call/research/h30/>

分野等：

1. 探索加速型（「超スマート社会の実現」領域、「持続可能な社会の実現」領域、「世界一の安全・安心社会の実現」領域、「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域、「共通基盤」領域）
2. 大規模プロジェクト型

公募期間：30年6月12日～7月31日

.....  
☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）（総務省）

独創的な人向け特別枠「innovation」プログラム

ICT 技術開発課題への挑戦者の公募

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000245.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000245.html)

分野等：ICT 分野において破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる可能性のある奇想天外でアンビシャスな ICT 研究開発課題への挑戦を支援する。

公募期間：平成30年5月22日～7月20日

.....  
☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム（I-Challenge!）（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合（ICT × ○ ○）をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC（Proof of Concept：概念検証）に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成30年4月12日～平成31年3月29日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記の URL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆米麦関係

○硬質小麦タマイズミの縮萎縮病抵抗性を強化した「スーパータマイズミ」の開発

小麦品種「タマイズミ」は、国産唯一の白粒硬質小麦品種で、中華麺及び醤油醸造用としての品質が優れています。しかし、縞萎縮病の被害が大きいという問題があります。そこで、三重県農業研究所が代表機関となり、農研機構・次世代作物開発研究センター、栃木県農業試験場と共同して、DNA マーカー選抜法を用いて、コムギ縞萎縮病抵抗性を「やや弱」から「強」に強化した「タマイズミ R」を開発・品種化（平成 28 年 11 月品種登録出願）するとともに、縞萎縮病発生圃場で収量の向上を確認しました。「タマイズミ R」は、中華麺、醤油醸造において従来の「タマイズミ」と同等以上の評価が得られており、三重県では奨励品種に採用されています（平成 29 年 3 月）。（「研究紹介 2018」より引用）

・農研機構 HP：（研究成果） 縞萎縮病に強い小麦新品種「タマイズミ R」

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nics-neo/075374.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics-neo/075374.html)

・農食研究推進事業における研究課題の内容：

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26085c\\_gaiyou.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26085c_gaiyou.pdf)

#### ☆園芸関係

##### ○軟弱野菜自動収穫ロボット実用化研究開発

ハウレンソウなどの軟弱野菜の栽培では、収穫・調整にかかる時間が全作業時間の大半を占めるために、収穫精度の高い自動収穫ロボットの実用化が望まれています。そこで、信州大学が代表機関となり、カイシン工業（株）、（株）西澤電機計器製作所、エムスクウェア・ラボ（株）、全国農業協同組合連合会が共同して研究を実施しました。研究成果として、①向きを揃えて自動収穫する技術を開発し、ハウレンソウを傷付けずに自動収穫することが可能となりました、②条に沿った直進走行技術は、条の境界に追従制御するためのアルゴリズムを構築し、圃場実験によって追従可能であることが確認されました、③これらを収穫機に搭載することで自動走行による収穫の可能性が確認されました。2019 年度には、ハウレンソウ収穫機がリリースされる予定とのことです。（「研究紹介 2018」より引用）

・農食研究推進事業における研究課題の内容：

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27021c\\_gaiyou.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27021c_gaiyou.pdf)

・信州大学工学部：ハウレンソウ自動収穫動画（You Tube）：

<http://www.shinshu-u.ac.jp/movie/2015/04/62168.html>

#### ☆林業関係

##### ○侵略的拡大竹林の効率的駆除法と植生誘導技術の開発

里山における放置竹林が周囲の森林や耕地に侵入する問題が生じています。このため、放置竹林を効率的に駆除し、広葉樹林等に誘導する技術を、森林研究・整備機構が代表機関となり、石川県林業試験場、大阪府立環境農林水産総合研究所、島根県中山間地域研究センター、愛媛大学農学部が共同して研究を実施しました。研究成果として、①塩素酸系除草剤の土壌散布とグリホサート系除草剤の切株注入は、竹の再生を抑制する効果が高いこと、②伐採の繰り返しにより竹を駆除するためには、7 年程度、年 2 回の刈払いが必要

であること、③空中写真で竹林と森林を識別するためには、竹の葉色が黄色味を帯びる4月～6月の画像を用いるのが有効であること、④竹駆除の様々な作業のコストを試算し、作業方法・手順を手引き書としてまとめました。（「研究紹介 2018」より引用）

・農食研究推進事業「研究紹介 2018」：

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/kankoubutu/attach/pdf/fundresults2018-17.pdf>

#### ☆水産関係

#### ○未利用資源である磯焼けウニの食品としての健康機能性解明と蓄養技術開発

日本各地で磯焼け域が広がっていますが、磯焼け域に生息するウニは、餌となる海草が生育していないために、低品質な生殖巣しか持たない個体が大半を占めており、商品価値がないので漁獲対象になっていません。また、磯焼けウニが放置されているために、磯焼け域が拡大する要因ともなっています。

この対策として、磯焼けウニを用いた経済性の高い利用技術の開発が必要となっています。北海道大学を代表機関とし、熊本県立大学、産業技術総合研究所、北海道情報大学、(株)北清を共同研究機関とする研究グループにより農食研究推進事業が実施され、本研究成果が生まれました。研究成果として、①低コストの人工飼料を用いた新規ウニ養殖法を開発し、海洋での養殖籠を用いた実証実験に成功、②ヒト試験で腸内環境改善作用が確認され、特に、女性群では血中脂質改善作用が認められました、③ウニには抗肥満作用に関わるアラキドン酸等の機能性脂肪酸が豊富に含まれること、抗炎症成分であるフラン脂肪酸も豊富に含まれることが明らかとなりました。（「研究紹介 2018」より引用）

・農食研究推進事業における研究課題の内容：

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27018b\\_gaiyou.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27018b_gaiyou.pdf)

・浦 和寛・加藤 元「ウニ用高機能餌料の開発 ～磯やけのウニを商品化する～」

<http://www.noastec.jp/kinouindex/data2013/pdf/01/S04.pdf>

.....

#### 編集後記

7月に入りましたが、サッカー・ワールドカップにおける日本代表の活躍に多くの方が拍手喝采し、残念がったことと思います。一方、西日本で集中豪雨により多数の方が亡くなられ、また被災されました。心より哀悼の意を表しますとともにお見舞い申し上げます。地球温暖化の現象の1つとして、集中豪雨の頻度の上昇と降雨量の増加が予測されていますので、過去の経験を超える豪雨を想定した対策・リスク管理を考える必要性を痛感します。また、トランプ大統領発の米中貿易摩擦が起き、世界・日本経済への悪影響が懸念され、対応・対策が必要となっています。社会・経済も自然環境も変貌しつつある中で、あるべき姿を見定め、的確な対応・対策をとっていくことが求められます。

ところで、最近読んだ本に川井雅司著「未来の年表2～人口減少日本であなたに起きること～」（2018年発刊、講談社現代新書）があります。本書は、前に本欄でご紹介したベストセラーの川井雅司著「未来の年表～人口減少日本でこれから起きること～」の続編です。今回は、少子高齢化や人口減少が人々の身近な暮らしにどのような形で降りかかってくるのかを具体的にイメージできるようにすることによって、国民一人一人が自分のこと

として少子高齢化・人口減少の問題をとらえ、もっと目を向けて欲しいという著者の願望が込められています。個々に挙げられた事例を概観すると、社会全体がスロー化し、不便になり、非効率化するとされ、例えば、買い物難民の問題はネット通販で解決すると思われていますが、運転手の数が圧倒的に足りなくなるので、先々はそうはならないと指摘しています。また、2050年代になると、毎年90万人規模で人口が減少し、国内マーケット向けに販売している業種は、深刻な需要不足に襲われることが予想されています。本書の最後に「今からあなたにできること」も提案されています。

著者の基本的な考え方は、少子高齢化・人口減少社会においては、過去の成功体験である「大量生産・大量消費」の拡大成長モデルを維持しようと無理するのではなく、「戦略的に縮む」ことによって豊かな日本社会を築いていくべきとしています。この考え方は、国家運営の基本にも関わるものであり、個々の対策の羅列ではなく、戦略的・総合的な検討を要する課題と思われま

==== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>



平成30年8月10日発行

=====

東海生研 ～ メールマガジン 第164号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

=====

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー
- ☆ NPO 法人東海生研の行事予定
- (第3回セミナー、アグリビジネス創出フェア2018 in 東海)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆平成30年度東海農政局「食品安全セミナー(8月)」 (8月26日)
- ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会8月研究会 (8月23日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- ☆第2期SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)
- 『スマートバイオ産業・農業基盤技術』の公募について
- (農研機構・生研支援センター)
- ☆平成30年度企業主導フェーズ:NexTEP-Aタイプ (JST)
- ☆平成30年度産学共同実用化開発事業NexTEP (JST)
- 未来創造ベンチャータイプ
- ☆平成30年度産学共同実用化開発事業NexTEP一般タイプ (JST)
- ☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)機能検証フェーズ
- 試験研究タイプ(第2回公募) (JST)
- ☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)機能検証フェーズ
- 実証研究タイプ (JST)
- ☆平成30年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャー
- ーに対する事業化支援(第2回公募) (NEDO)
- ☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE) (総務省)
- ICT研究者育成型研究開発(若手研究者枠)
- ☆平成30年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)
- ☆NEDO TCP(Technology Commercialization Program)2018 (NEDO)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー

【開催日時】平成30年9月4日(火) 13時30分～17時

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1208&1209会議室

【講演】

第1会場(1208会議室)

○水産部会 13:30～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○作物部会 14:30～15:30

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種『なるみ』等のナシ品種育成の現状」

農研機構 果樹茶業研究部門 品種育成・病虫害研究領域 上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 15:40～16:40

「肉牛生産における SPAY(卵巣摘出術)のメリットと活用事例」

モーモークリニック 大久保幸弘 氏

第2会場(1209会議室)

○林産部会 13:30～14:30

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部 助教 山内恒生 氏

○食品部会 14:30～15:30

「果実(柿等の規格外品)のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の開発」

岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏

【技術相談】案件の受付をさせていただきます、後日、対応させていただきます。

【参加】無料、事前申し込み

【情報交流会】参加費有り(2500円)、事前申し込み

1209会議室で17時から18時30分

☆東海生研行事予定

○第3回セミナー(予定)

【開催日時】平成30年10月31日(水)13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち

【テーマ】「新たな農業技術の展開 ～植物工場とICT & IoT技術～」

【内容】

挨拶

セッション1 農業現場におけるICT & IoT技術の展開

(1)振興政策について

- (2)トヨタ自動車(株)の「豊作計画」
- (3)(株)クボタのトラクター等搭載 IoT 技術

セッション2 植物工場拠点の展開

- (1)太陽光利用型植物工場で得られた研究成果と今後の課題
- (2)人工光型植物工場で得られた研究成果と今後の課題

【参加費】 無料

【交流会】 17:10～ 会場：セミナー会場と同じ 参加費：2,500 円

○アグリビジネス創出フェア 2018 in 東海

【開催日時】 平成 31 年 1 月 29 日～ 30 日

【開催場所】 ウィンクあいち

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成 30 年度「食品安全セミナー(8月)」

(東海農政局)

○8月26日(日) 13時30分～15時40分

【場所】 東海農政局 1 階 第 1 会議室 (名古屋市中区三の丸 1-2-2)

【主催】 東海農政局

【申込期限】 8 月 23 日 17 時まで

【開催案内 (プレスリリース)】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/180724.html>

第一部 「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 消費生活課 職員

第二部 「健康食品やサプリメントとの上手なつきあい方」

公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

消費生活アドバイザー 長谷川千鶴 氏

【参加】 参加費無料、定員 40 名になり次第締め切られます。

【参加申込】 上記 URL から FAX 又はインターネットでお申込み下さい。

【お問い合わせ】 消費・安全部消費生活課 担当者：森 (啓)、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線 2810)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX：052-220-1362

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内の URL をご覧ください。

.....  
☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 8 月研究会

【開催日時】 平成 30 年 8 月 23 日(木) 午後 2 時から 5 時

【開催場所】 名古屋市市民活動推進センター 研修室

名古屋市中区栄三丁目 18 番 1 号

ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階 (052-228-8039)

【講演】

14時～15時20分

- ・「小規模適応型の産廃物・排水汚泥・廃油の削減の新技术」

フレスコ株式会社 代表取締役 江藤啓介 氏

15時30分～17時

- ・「食品リサイクルループは命をつなぐ環」

ユニー株式会社業務本部 CRS 部 シニアチーフマネージャー 松井 淳氏  
(愛知環境賞・優秀賞受賞)

HP : [http://aichikankyoushou.jp/files/00009706/2018\\_15\\_yusyu\\_uny.pdf](http://aichikankyoushou.jp/files/00009706/2018_15_yusyu_uny.pdf)

【会費】 会員 無料 会員以外 1,000円 (学生 500円)

【懇親会費】 講師を囲んでの交流会を予定しています。(自由参加)

会費 3,000円 場所：中国料理シルクロード上前津店

(名古屋市中区大須 4-11-61 TEL:052-265-4888)

【参加申込み】 当日会場にてお申込み下さい。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○アグリビジネス創出フェア 2018

【開催日時】 平成30年11月20日(火)～22日(木) 10:00～17:00

【開催場所】 東京ビッグサイト(東京国際展示場)(東京都江東区有明 3-11-1)

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成30年度競争的研究資金等について

【研究開発関連】

☆第2期 SIP(戦略的イノベーション創造プログラム) (農研機構・生研支援センター)  
「スマートバイオ産業・農業基盤技術」の公募について

平成29年度補正予算で措置された第2期 SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)

のうち、対象課題「スマートバイオ産業・農業基盤技術」の公募が開始されました。本課題は、世界的なバイオエコノミーの拡大、競争の激化が予想される中、バイオとデジタルの融合、多様で膨大なデータの利活用により、農林水産業等の生産性革命・競争力の強化、食による健康増進社会の実現、生物機能を活用したものづくりによる持続可能な成長社会の実現を目指すものです。

公募は本課題の管理法人である国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター(略して「生研支援センター」という。)が実施しています。

分野等：

1. 健康寿命の延伸を図る「食」を通じた新たな健康システムの確立
2. 多様なデータの利活用による農林水産業・食品産業の生産性革命・競争力の強化
3. 「生物機能を活用したものづくり」による持続可能な成長社会の実現
4. バイオ・デジタル融合イノベーションを創出する研究開発基礎の構築

概要説明：<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/sip/news/2018/082029.html>

公募要領：[www.naro.affrc.go.jp/brain/sip/files/sip2\\_kouboyoryo.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/brain/sip/files/sip2_kouboyoryo.pdf)

公募期間：平成30年7月25日（水曜日）～8月27日（月曜日）

.....  
☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） (JST)

平成30年度 企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

.....  
☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)  
<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

.....  
☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)  
<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

.....  
☆平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 機能検証フェーズ (JST)  
試験研究タイプ (第2回公募)

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：企業等の開発ニーズに基づき、技術移転の可能性が見込まれる大学等が保有する研究成果、知的財産の活用のための試験研究を支援する。

公募期間：平成30年7月11日～9月11日

.....  
☆平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 機能検証フェーズ (JST)  
実証研究タイプ

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：企業等の開発ニーズに基づき、技術移転の可能性が見込まれる大学等が保有する研究成果、知的財産の活用のための実証研究を支援する。

公募期間：平成30年7月11日～9月11日

.....  
☆平成30年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する  
事業化支援 (第2回公募) (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100188.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100188.html)

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等とNEDOが協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：平成30年7月12日～8月31日

.....  
☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) (総務省)  
ICT研究者育成型研究開発 (若手研究者枠)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000249.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000249.html)

分野等：新たな価値の創造や社会システムの変革に寄与する、以下の1～7のICTの研究開発分野 (分類の融合領域や分類横断的な研究開発を含む) を対象とする。

1. センシング&データ取得基盤分野
2. 統合ICT基盤分野
3. データ利活用基盤分野
4. 情報セキュリティ分野
5. 耐災害ICT基盤分野
6. フロンティア研究分野
7. IoT/BD/AI技術の研究開発分野

公募期間：平成30年7月11日～10月12日

.....

☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合 (ICT×○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成30年4月12日～平成31年3月29日

.....  
【研究開発関連以外】

☆NEDO TCP (Technology Commercialization Program) 2018

(NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100185.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100185.html)

分野等：NEDO Technology Commercialization Programは、技術を基に起業して事業を大きく拡大させたいと考えている起業家、起業家予備群、起業意識のある研究者等を支援するためのプログラムであり、以下1～3の機会を提供する。

1. 技術シーズの事業化に必要な知識を提供する研修の実施
2. 専門家によるビジネスプランの作成支援・メンタリング
3. ビジネスに結び付けるための大企業・ベンチャーキャピタル等へのビジネスプラン発表、ネットワーキング、マッチング

公募期間：平成30年6月8日～9月14日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください (下記の URL の後半)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆園芸 (果樹) 関係

○弱熱耐性果樹の白紋羽病温水治療を達成する体系化技術の開発

果樹の白紋羽病防除については、50℃の温水を罹病果樹の周辺に点滴する技術が、ナシ、リンゴ、ブドウにおいて実用化されています。しかし、熱に弱いビワ、サクランボ、モモでは上記の技術は使えません。そこで、より低温の45℃の低温水処理と、市販の微生物資材 (トリコデルマ属糸状菌を含む) による土壌の白紋羽病抑止効果とを合わせて防除するという技術が開発されました。本研究成果は、農研機構を代表機関とする共同研究グループが農食研究推進事業を実施し得られました。

・農林水産技術会議事務局 平成27年度 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業  
実用技術開発ステージ：

「弱熱耐性果樹の白紋羽病温水治療を達成する体系化技術の開発／研究計画」

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27009c\\_gaiyou.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27009c_gaiyou.pdf)

- ・長崎県農業技術開発センター成果情報：

「45℃温水点滴処理によるビワ白紋羽病の治療技術」

<http://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/theme/result/H29seika-jouhou/fukyu/F-29-07.pdf>

- ・農林水産技術会議「研究紹介」：「温水を周辺土壌に点滴処理することにより白紋羽病にかかった果樹（ナシ、リンゴ、ブドウ）を治療する環境負荷低減型の防除技術」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/shiromonpa.pdf>

- ・農研機構：白紋羽病 温水治療マニュアル 改訂版

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/010793.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/010793.html)

#### ☆茶関係

- 抹茶や粉末茶に適した緑茶用新品種「せいめい」

最近、抹茶の生産量は増加しており、今後も、国内需要と輸出の増加が見込まれています。被覆栽培で収量が多く、粉末の色合いに優れ、関東以南の生産地域に適した新品種「せいめい」が農研機構果樹茶業研究部門で開発されました。更新時期となった「やぶきた」の植替え品種として推奨されます。

- ・農林水産省 最新農業技術・品種 2018：

「抹茶や粉末茶に適した緑茶用新品種『せいめい』」

[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new\\_tech\\_cultivar/pdf/2018kobetuseika/2018\\_18.pdf](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/pdf/2018kobetuseika/2018_18.pdf)

#### ☆水産関係

- カイヤドリウミグモの寄生被害を回避軽減するためのアサリ放流手法の開発

最近の三河湾、伊勢湾ではアサリの急激な減少により、潮干狩りの中止など影響が広がっています。この現象は、東京湾（千葉県など）などで、東海地域に先立って発生しました。千葉県水産総合研究センターが中核機関となる農食研究推進事業の中で、アサリ減少の原因の1つとして、カイヤドリウミグモ（節足動物）の寄生による被害が重要であるとの認識から、カイヤドリウミグモの幼生を鋭敏かつ簡便に検出する手法を開発し、この手法を用いて発生時期及び発生場所を特定し、本種の発生の少ない時期及び場所にアサリの種苗を放流することによって被害を軽減する、いわゆる「被害回避法」を明らかにしました。三河湾におけるカイヤドリウミグモの発生時期については、村内ら（2014）が明らかにしており、被害回避地策への応用が期待されます。

- ・農林水産技術会議事務局 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 研究紹介 2013, 研究紹介 8, 165~166 頁：「カイヤドリウミグモの寄生被害を回避軽減するためのアサリ放流生産手法の開発」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/kankoubutu/fundresults2018.htm>

- ・農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター・Agriknowledge：



「カイヤドリウミグモの生態解明とアサリの新たな生産対策」

<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/3010027068>

・ J-STAGE (JST) : 村内ら (2014) 知多半島東岸におけるカイヤドリウミグモの生活年周期とアサリへの寄生動態に及ぼす水温の影響. 水産増殖 62(2) : 183-190.

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/aquaculturesci/62/2/62\\_183/pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/aquaculturesci/62/2/62_183/pdf)

編集後記

夏真っ盛りの8月です。台風12号は、いつもとは逆の異例のコースをたどり東から西へ進みました。西日本豪雨の後、日本各地で記録的な猛暑に見舞われています。また、日本だけではなく、世界各地が猛烈な暑さに襲われているようで、北欧やシベリアでは熱波による暑さで森林火災が発生し、カナダのケベック州やギリシャでは森林火災で死者もできているとのことです。世界的な異常気象が起きる頻度が上昇していると指摘され、猛暑の原因対策への世界全体の本気度が試されます。

本屋さんで、「クルマがスマホ化する・・・」の本帯を見て、井上久男著「自動車会社が消える日」(文春新書)を読みました。

巨大な自動車産業では、大きなパラダイムシフト・・・クルマのスマホ化とロボット化・・・が進んでいて、独立して存在しているクルマが外部ネットワークとつながり、さらに、クルマと人工知能の融合によって、無人で完全自動運転のクルマが登場するであろうと、著者は述べています。

著者の問題意識は、IT企業などの新規参入や、消費者の価値観の変化、そしてクルマの様々な新しい技術やサービスが生まれることで、伝統的な自動車メーカーは変化に対応できず、また消費者の心を掴めないと危惧されることです。

本書ではこんな記述が出てきます。ダーウインの進化論が説くように、餌をとる環境に合わせて、くちばしの形を適応させていった鳥にならなければならない。環境の変化に対応できずに絶滅した恐竜になるのか、それとも適応した鳥になるのか。「未知の敵」との競争では、環境の変化に合わせていけるかに勝敗がかかっている。

自動車産業では、誕生して以来のパラダイムシフトが始まっており、日本の自動車企業にとって、VWの戦略は最適のベンチマークであろうと書かれています。VWの大改革と環境規制への対応強化、クルマの電動化、そしてモビリティサービスのプラットフォーム化が述べられおり、ドイツのクルマ造りが産学連携によって、企業の真のニーズが大学に伝わり、最新の技術・研究情報が企業側に流れ、人と知見のスムーズな流通が生まれると指摘されています。

著者は農業や加工食品も、海外市場では「安全・安心」を示すエビデンスが求められ、国際的なルールへの合致が重要であると論じています。大いに参考にしたいと思いました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研 ～ メールマガジン 第165号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナーの延期について
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (10月31日)
- ☆ アグリビジネス創出フェア2018 in 東海(予定)(平成31年1月29～30日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆ 「スマート農業加速化実証プロジェクト等に関する全国ブロック説明会  
(東海ブロック)」 (9月21日)
- ☆ 平成30年度東海農政局「食品安全セミナー(9月)」 (9月26日)
- ☆ シンポジウム「スマート農業の進展がもたらす新しい農業と産業の姿」  
(10月22日)
- ☆ 野菜花き課題別研究会「アブラナ科野菜における育種と栽培の現状と展望」  
(10月29日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆ アグリビジネス創出フェア2018(東京ビッグサイト)(11月20日～22日)
- ☆ 農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- ☆ 平成30年度 企業主導フェーズ: NexTEP - A タイプ (JST)
- ☆ 平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP (JST)  
未来創造ベンチャータイプ
- ☆ 平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆ 平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) (総務省)  
ICT 研究者育成型研究開発 (若手研究者枠)
- ☆ 平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!)  
(総務省)
- ☆ 平成30年度新規委託研究 (第三弾) (国立研究開発法人情報通信研究機構)
- ☆ 平成30年度創薬基盤推進研究事業  
(薬用植物国産化・利活用促進プロジェクト) (2次公募)  
(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
- ☆ 民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナーの延期について

第2回セミナーを平成30年9月4日(火)に開催する予定でしたが、台風21号の接近のため、やむを得ず中止し、後日に延期することと致しました。いろいろご迷惑をおかけしました。今後の開催予定は、当研究会ホームページ、メルマガ等で改めてお知らせ致します。

.....

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー(予定)

【開催日時】平成30年10月31日(水)13:30~17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター)

【テーマ】「新たな農業技術の展開 ~植物工場とICT & IoT技術~」

【内容】

挨拶

セッション1 農業現場におけるICT & IoT技術の展開

(1) 振興政策について

(2) トヨタ自動車株式会社の「豊作計画」

(3) 株式会社クボタのトラクター等搭載IoT技術

セッション2 植物工場拠点の展開

(1) 太陽光利用型植物工場で得られた研究成果と今後の課題

(2) 人工光型植物工場で得られた研究成果と今後の課題

【参加費】無料

【交流会】17:10~18:30 会場:セミナー会場と同じ 参加費:2,500円

.....

☆ アグリビジネス創出フェア2018 in 東海(予定)

【開催日時】平成31年1月29日~30日

【開催場所】ウインクあいち 6階展示場

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆ 「スマート農業加速化実証プロジェクト等に関する全国ブロック説明会(東海ブロック)」

【開催日時】平成30年9月21日(金)13時30分~16時30分

【開催場所】桜華会館 松の間(愛知県名古屋市中区三の丸一丁目7番2号)

【内容】

(1) スマート農業の推進について

(2) 平成31年度スマート農業関連予算(概算要求)について

(3) 農業データ連携基盤について

【プレスリリース】 [http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan\\_kankyo/180903.html](http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan_kankyo/180903.html)

【参加申込】 申し込み期限 9月14日

上記のプレスリリースの URL から参加申込書を取り出して下記へお送りください。

FAX 送付先：農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課宛て

FAX 番号：03-3593-2209

.....  
☆平成30年度「食品安全セミナー(9月)」

【開催日時】 平成30年9月26日(水) 13時30分～16時

【場所】 東海農政局1階 第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】 東海農政局

第一部 「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 消費生活課 職員

第二部 「輸入食品の安全性について」

講師：名古屋検疫所 職員

【開催案内】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/180905-1.pdf>

【参加】 参加費無料、定員40名になり次第締め切られます。

【参加申込】 上記 URL から FAX 又はインターネットでお申込み下さい。

【お問い合わせ】 消費・安全部 消費生活課 担当者：森(啓)、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線2810)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX：052-220-1362

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内の URL から申込書を取り出し、ご記入の上、お送り下さい。

.....  
☆シンポジウム「スマート農業の進展がもたらす新しい農業と産業の姿」

【開催日時】 平成30年10月22日(月曜日) 13時30分～17時35分

【開催場所】 明治安田生命名古屋ビル16階大ホール(愛知県名古屋市中区新栄町1-1)

【内容】

(1) 開会挨拶 東海農政局長 幸田 淳 氏

(2) 基調講演

・「Society5.0を構成する農業・食品分野の革新への取組み」

農研機構 理事(産学官連携担当) 折戸 文夫 氏

・「日本農業の新たな潮流～アグリビジネスの台頭、スマート農業の実用化～(予定)」

株式会社日本総合研究所創発戦略センター エクスパート(農学) 三輪 泰史 氏

・「甘くない企業参入とスマート農業」株式会社日本経済新聞社 編集委員 吉田 忠則 氏

(3) パネルディスカッション

(4) 閉会挨拶

【プレスリリース】 [http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan\\_kankyo/180904.html](http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan_kankyo/180904.html)

【主催】 東海農政局・公益財団法人中部圏社会経済研究所

【参加申込】 定員 200 名、申し込み期限 10 月 5 日。

上記のプレスリリースの URL から参加申込書を取り出して下記へお送りください。

送付先：公益財団法人中部圏社会経済研究所宛

FAX 番号：052-212-8782

.....  
☆平成30年度野菜花き課題別研究会「アブラナ科野菜における育種と栽培の現状と展望」

【開催日時】 平成30年10月29日(月)13時～30日(火)12時

【開催場所】 愛知県産業労働センター(ウインクあいち)

【詳細】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/08/082198.html>

【内容】 下記の開催要領参照

[http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/nivfs20181029\\_kaisai-youryou.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/nivfs20181029_kaisai-youryou.pdf)

【主催】 農研機構野菜花き研究部門、一般社団法人日本種苗協会

【参集範囲】

- 1) 国立研究開発法人および公立試験研究機関 野菜研究担当者
- 2) 日本種苗協会 関係者
- 3) 国および地方自治体 野菜行政・普及担当者
- 4) その他、野菜花き研究部門長が認めた者

【参加申込】 上記の「詳細」からお申込み下さい。10月12日締切。

---

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

---

○アグリビジネス創出フェア 2018

【開催日時】 平成30年11月20日(火)～22日(木) 10～17時

【開催場所】 東京ビッグサイト(東京国際展示場)(東京都江東区有明 3-11-1)

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

---

◆ 4 ◆ 平成30年度競争的研究資金等について

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）（JST）

平成30年度 企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ（JST）

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ（JST）

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

☆平成30年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援（第2回公募）（NEDO）

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100188.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100188.html)

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等とNEDOが協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：平成30年7月12日～8月31日

☆平成30年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）（総務省）

ICT研究者育成型研究開発（若手研究者枠）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000249.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000249.html)

分野等：新たな価値の創造や社会システムの変革に寄与する、以下の1～7のICTの研究開発分野(分類の融合領域や分類横断的な研究開発を含む)を対象とする。

1. センシング&データ取得基盤分野

2. 統合ICT基盤分野
3. データ利活用基盤分野
4. 情報セキュリティ分野
5. 耐災害ICT基盤分野
6. フロンティア研究分野
7. IoT/BD/AI技術の研究開発分野

公募期間：平成30年7月11日～10月12日

☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合 (ICT × ○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成30年4月12日～平成31年3月29日

☆平成30年度新規委託研究 (第三弾) (国立研究開発法人情報通信研究機構)

<http://www.nict.go.jp/press/2018/08/31-1.html>

分野等：データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究開発 等

公募期間：平成30年8月31日～10月1日

☆平成30年度創薬基盤推進研究事業 (薬用植物国産化・利活用促進プロジェクト)

(2次公募) (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)

[https://www.amed.go.jp/koubo/06/01/0601B\\_00051.html](https://www.amed.go.jp/koubo/06/01/0601B_00051.html)

分野等：

1. 薬用植物種苗供給技術開発拠点整備に係る研究
2. 薬用植物栽培技術開発に係る研究

公募期間：平成30年9月3日～10月9日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください (下記の URL の後半)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○ポリアミンを増強した納豆の開発とポリアミン高含有納豆の機能性の研究

本研究成果は、自治医科大学が代表機関となり実施された農食研究推進事業 (シーズ創



出ステージ) によるものです。健康長寿食物の1つである豆類に多く含まれるポリアミンは、マウスを用いた試験で寿命を延ばすことが知られています。そこで、高ポリアミン食品の1つである納豆に着目し、(1)ポリアミン濃度を上昇させること、(2)ヒト介入試験による生体内でのポリアミンの生理活性を明らかにすること、さらに、ポリアミンのアンチエイジング効果について研究されました。その結果、(1)納豆のポリアミン濃度は、原料大豆のポリアミン濃度に依存すること、(2)ポリアミンは老化や生活習慣病の原因と考えられる遺伝子修飾異常(異常メチル化)を改善することが明らかにされました(農林水産省「研究紹介 2017」を引用)。

・農林水産省 HP : 「研究紹介 2017」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/kankoubutu/attach/pdf/fundresults2017-57.pdf>

#### ☆果樹・茶関係

○茶生葉との共溶解技術を利用した摘果ミカンからの高溶解フラボノイド含有食品等の開発

本研究成果は、長崎県農林技術開発センターが代表機関となり実施された農食研究推進事業(実用技術開発ステージ)によるものです。摘果ミカンには、毛細血管の強化や血流改善効果などの機能性を有するとされる水に難溶解性のヘスペリジンが多く含まれています。本研究では、ヘスペリジンの水溶性を高め、生体内への吸収性を高めるための技術開発が行われました。すなわち、摘果ミカンと茶生葉を1:3の割合で20分間強く揉み込み乾燥させた発酵茶の製法が開発されると共に、この飲料材料はヒトの血管の柔軟性を改善することが明らかにされました(農林水産省「研究紹介 2017」を引用)。

・農林水産省 HP : 「研究紹介 2017」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/kankoubutu/attach/pdf/fundresults2017-8.pdf>

#### ☆水産関係

○新技術による地場採苗を活かしたマガキ養殖システムの開発

本研究成果は、水産研究・教育機構瀬戸内海区水研が代表機関となって実施された農食研究推進事業(発展融合ステージ)によるものです。マガキ養殖は、広島、宮城の2大産地から種苗を購入して行われる場合が多いのですが、近年の採苗不調により種苗確保が困難となり、価格高騰にも直面しています。本研究により、養殖業者が実施可能な地場採苗技術と地場採苗の特性を活かした養殖システムが開発されました。すなわち、人工採苗法として、養殖カゴに固形物を収容し垂下する方法です。固形物のサイズを5mmにすることによって、固形物1個にカキが1個付着する比率を約90%にまで高め、カキの殻高が3mmになった時に海域に垂下して養殖を開始します。この技術は、カキ生産の安定化に資するだけでなく、生産者が小規模から開始でき、自ら生産したカキを用いて6次産業化への展開を図ることができる可能性を有しています(農林水産省「研究紹介 2017」を引用)。

・農林水産省 HP : 「研究紹介 2017」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/kankoubutu/attach/pdf/fundresults2017-1.pdf>

・国立研究開発法人水産研究・教育機構増養殖研究所 HP : 「カキ殻加工固形物を用いたマガキの天然採苗技術」

[http://fra-seika.fra.affrc.go.jp/~dbmgr/cgi-bin/search/search\\_detail.cgi?RESULT\\_ID=6078&YEAR=2016](http://fra-seika.fra.affrc.go.jp/~dbmgr/cgi-bin/search/search_detail.cgi?RESULT_ID=6078&YEAR=2016)

編集後記

猛暑が続き災害の多かった8月が過ぎたと思いきや、9月に入るといきなり25年ぶりの非常に強い台風21号が東海地方にも激しい暴風雨をともなって接近しました。この台風は1961年の第2室戸台風と似たコースを進み、大阪湾ではこれを超える潮位となり関空滑走路が水没するなど、広範囲に被害を及ぼしました。これから発生する台風にも油断できません。その後すぐに、北海道で大きな地震があり、北海道中が停電し、震源地近くで山崩れが多発し死傷者がでています。被害者へのお悔やみとお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧が望まれます。自然の脅威に翻弄される日本列島という状況ですので、優先的にハード・ソフト両面での防災対策に力を入れていく必要性を痛感します。

ところで、最近読んだ本に、藻谷浩介著「デフレの正体～経済は『人口の波で動く』～」(角川 one テーマ 21 : 2010 年初版発行)があります。筆者は、以前に本メルマガ(2013年11月号)でご紹介した「里山資本主義～日本経済は『安心の原理』で動く」を著しています。著者は、2000年頃から約3200市町村を訪問し、更に、海外59か国を訪問して経済社会を実見するという経験の上に、各種統計を分析して本書を書き上げました。実際に地域経済の姿を反映した統計データを読者に示しながら、生産年齢人口＝消費年齢人口の減少が内需不振の原因となっていることを示しています。その上で、デフレ克服のために採られている現在の政策・考え方の問題点を指摘し、どのようにしていったらよいのかを具体的に示しています。すなわち、①若い世代の所得向上・所得移転を積極的に進める、②女性の就労と経営参加を当たり前のことにする、③外国人観光客・短期定住客の受け入れを増やすことなどが当面重要であるとしています。出生数の増加は勿論重要ですが容易ではなく長年月を要する課題ですので、上記のような内需増進策を進めていく必要性を述べています。バブル崩壊後20年以上にわたるデフレ傾向・経済停滞は、その原因把握と対策が的を得ていなかった面もあると思われるところがありますが、本書は読者を納得させる一貫した視点を提供するとともに、今後のリーズナブルな対策も提示しており、日本経済への理解を一層深め、今後の企業経営の有り方を考えていく上でたいへん参考となる一冊であると思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研 ～ メールマガジン 第166号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (10月31日)
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (11月28日)
- ☆ アグリビジネス創出フェア 2018 in 東海 (平成31年1月29～30日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆ シンポジウム「スマート農業の進展がもたらす新しい農業と産業の姿」  
(10月22日)
- ☆ 平成30年度東海農政局「食品安全セミナー(10月)」 (10月30日)
- ☆ 野菜花き課題別研究会「アブラナ科野菜における育種と栽培の現状と展望」  
(10月29日～30日)
- ☆ 農研機構野菜花き研究部門野菜研究安濃拠点一般公開 (11月3日)
- ☆ 愛知県農業総合試験場公開デー (11月3日)
- ☆ 平成30年度東海地域マッチングフォーラム (11月15日)  
～ 土壌養分の簡易計測と地域資源の利用による施肥コスト削減～
- ☆ 植物ゲノム編集技術ワークショップ (11月16日)
- ☆ 静岡県農林技術研究所公開デー (11月17日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆ アグリビジネス創出フェア 2018 (東京ビッグサイト) (11月20日～22日)
- ☆ 農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- ☆ 平成31年度 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (JST)
- ☆ 平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)  
企業主導フェーズ: NexTEP - A タイプ
- ☆ 平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP (JST)  
未来創造ベンチャータイプ
- ☆ 平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆ 平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!)  
(総務省)
- ☆ 平成31年度 環境研究総合推進費 (独立行政法人・環境再生保全機構)
- ☆ 平成31年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)
- ☆ 民間の競争的研究資金

○ 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆1◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー

【開催日時】平成30年10月31日(水) 13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1201会議室

【テーマ】「新たな農業技術の展開 ～植物工場とICT & IoT技術～」

【開催案内】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2195>

【内容】

挨拶

セッション1 農業現場におけるICT & IoT技術の展開

(1)スマート農業の推進について 13:40～14:10

農林水産省大臣官房政策課技術政策室 課長補佐 大熊 武氏

(2)トヨタ自動車(株)の「豊作計画」 14:10～14:40

トヨタ バイオ緑化研究所 高木 徹氏

(3)クボタのスマート農業への取り組み 14:40～15:10

～各種農業機械とICTを連動させ農作業の効率を向上させる～

株式会社クボタ 特別技術顧問 工学博士 飯田 聡氏

休憩

セッション2 植物工場拠点の展開

(1)太陽光利用型植物工場で得られた研究成果と今後の課題 15:20～16:10

三重県農業研究所 野菜園芸研究課長 原 正之氏

(2)人工光型植物工場で得られた研究成果と今後の課題 16:10～17:00

千葉大学大学院園芸学研究科 丸尾 達氏

【参加申込】参加費無料、

【交流会】17:10～18:30 会場：セミナー会場と同じ 参加費：2,500円(事前申し込み)

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナーの開催について

去る9月4日に開催予定でしたが、台風21号の接近のため中止しました第2回セミナーを下記の通り改めて開催することにしましたので、ご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【開催日時】平成30年11月28日(水) 13:00～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1003会議室

(名古屋市守山区名駅4丁目4-38 Tel 052-571-6131)

【開催案内】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2179>

【アクセス】・JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分  
・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【内容】

○林産部会 13:00～13:45

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 助教 山内恒生 氏

○水産部会 13:45～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○食品部会 14:30～15:15

「果実（柿等の規格外品）のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の  
開発」

岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏  
(休憩)

○作物部会 15:30～16:15

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種「なるみ」等のナシ品種育成の現状」

農研機構果樹茶業研究部門 品種育成・病虫害研究領域上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 16:15～17:00

「肉牛生産における SPAY（卵巣摘出術）のメリットと活用事例」

モーモークリニック 院長 大久保幸弘 氏

『技術相談』のある方は受付のみさせていただきます 後日、対応させていただきます。

\*情報交流会 17:15～18:45 (同じ会場 1003)

会費 2,500 円 (事前申し込みが必要)

【参集範囲】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会会員、農林水産・  
食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、大学・高校等教育機関、  
国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、  
その他

【参加費】 無料

【参加申込】 上記の「開催案内」の URL から「参加申込書」を取り出し、必要事項をご  
記入の上、ファックス又は電子メールでお送り下さい。

☆アグリビジネス創出フェア 2018 in 東海

【開催日時】 平成31年1月29日10:00～30日16:00

【開催場所】 ウィンクあいち 6階展示場

【開催概要】 開会式 (29日)

研究発表 (29日午前 研究・教育機関の研究成果、企業の研究成果予定)

ブース展示 (29日～30日予定)

企画展示(1)いちごマッチングフォーラム in 東海

企画展示(2) 東海・近畿地域の農林水産物加工品の展示

ポスター発表

相談コーナー (29日 16:00～17:00) 農水省コーディネーターが対応

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆シンポジウム「スマート農業の進展がもたらす新しい農業と産業の姿」

【開催日時】平成30年10月22日(月曜日) 13時30分～17時35分

【開催場所】明治安田生命名古屋ビル 16階大ホール(愛知県名古屋市中区新栄町1-1)

【内容】

(1) 開会挨拶 東海農政局長 幸田 淳 氏

(2) 基調講演

・「Society5.0を構成する農業・食品分野の革新への取組み」

農研機構 理事(産学官連携担当) 折戸 文夫 氏

・「日本農業の新たな潮流～アグリビジネスの台頭、スマート農業の実用化～(予定)」

株式会社日本総合研究所創発戦略センター エクスパート(農学) 三輪 泰史 氏

・「甘くない企業参入とスマート農業」株式会社日本経済新聞社 編集委員 吉田 忠則 氏

(3) パネルディスカッション

(4) 閉会挨拶

【プレスリリース】[http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan\\_kankyo/180904.html](http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan_kankyo/180904.html)

【主催】東海農政局・公益財団法人中部圏社会経済研究所

【参加申込】定員200名、申し込み期限10月5日。

上記のプレスリリースのURLから参加申込書を取り出して下記へお送りください。

送付先：公益財団法人中部圏社会経済研究所宛

FAX 番号：052-212-8782

☆平成30年度「食品安全セミナー(10月)」

【開催日時】平成30年10月30日(火) 13時30分～16時

【場所】東海農政局1階 第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】東海農政局

第一部 13:30～14:35

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部長 吉田竹志財 氏

「GAPについて」

講師：東海農政局 生産部 生産技術環境課長 長友秀昌 氏

第二部 14:50～15:50

「HACCPについて」

講師：東海北陸厚生局 職員

【開催要領】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/181009.html>

【参加】 参加費無料、定員 先着 40 名になり次第締め切られます。

【参加申込】 上記開催要領の URL から FAX 又はインターネットでお申込み下さい。

【お問い合わせ】 消費・安全部 消費生活課 担当者：森（啓）、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線 2810)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX：052-220-1362

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内にございます。

.....

☆平成30年度野菜花き課題別研究会「アブラナ科野菜における育種と栽培の現状と展望」

【開催日時】 平成30年10月29日(月)13時～30日(火)12時

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）

【詳細】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/08/082198.html>

【内容】 下記の開催要領参照

[http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/nivfs20181029\\_kaisai-youryou.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/nivfs20181029_kaisai-youryou.pdf)

【主催】 農研機構野菜花き研究部門、一般社団法人日本種苗協会

【参集範囲】

- 1) 国立研究開発法人および公立試験研究機関 野菜研究担当者
- 2) 日本種苗協会 関係者
- 3) 国および地方自治体 野菜行政・普及担当者
- 4) その他、野菜花き研究部門長が認めた者

【参加申込】 上記の「詳細」からお申込み下さい。10月12日締切。

.....

☆農研機構野菜花き研究部門野菜研究安濃拠点一般公開

【開催日時】 平成30年11月3日（土）10：00～15：00

（14：30受付終了）

【開催場所】 三重県津市安濃町草生360

【開催案内】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/09/083015.html>

【内容】

各研究領域等の展示

実演・体験・セミナー

ミニセミナー (1) コンピュータとロボットで野菜をたくさん作ろう

(2) 花を使った脳トレ 簡単フラワーアレンジメント

その他

.....

☆愛知県農業総合試験場公開デー

【開催日時】平成30年11月3日(土)9:00～14:00

【開催場所】愛知県農合総合試験場(長久手市岩作三ヶ峰1-1)

【内容】

講演 13時15分～13時45分(開場:12:45) 中央研究棟 研修ホール  
「名古屋コーチン 美味しさの秘密」 畜産研究部長 木野勝敏 氏

展示・相談等

ワークショップ(事前申し込み優先、無料)

- (1) ブロッコリーからDNAを取りだそう!
- (2) 土の不思議(土の機能を知る簡単な実験)
- (3) きみもぼくも鑑別師・ひなの♂♀を外観で見分けよう!
- (4) バターを作ろう!

研究施設見学(事前申し込み優先、無料)

試食アンケート(事前申し込み不要、無料)

【開催案内】キーワード「愛知県農業総合試験場 公開デー」で開催案内をご覧ください。

☆平成30年度東海地域マッチングフォーラム

～土壌養分の簡易計測と地域資源の利用による施肥コスト削減～

【開催日時】平成30年11月15日(木)10:00～17:15

【開催場所】名古屋国際センター(別棟ホール)(名古屋市中村区那古野1-47-1)

【詳細】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/09/083035.html>

【内容】上記の「詳細」参照

第1部 「スマート農業の実現に向けて」

第2部 「土壌養分の簡易計測と地域資源の利用による施肥コスト削減」

パネルディスカッション

ポスター展示

【主催】農林水産省大臣官房 技術政策課、農研機構中央農業研究センター

【対象範囲】生産者、生産者団体、行政・普及機関関係者、関連企業、試験研究機関関係者等

【参加申込】上記の「詳細」にある申込みフォームを利用してお申込み下さい(11月5日締切)。定員180名

☆植物ゲノム編集技術ワークショップ

【開催日時】平成30年11月16日(金)13:30～16:30

【開催場所】アスト津4階 研修室A(三重県津市羽所町700番地)

近鉄、JR津駅から徒歩1分

【詳細】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/09/082669.html>

【内容】上記の「詳細」参照



【主催】農研機構 生物機能利用研究部門

【参加申込】上記の「詳細」にある申込みサイトを利用してお申込み下さい（11月12日  
締切）。参加費無料

.....  
☆静岡県農林技術研究所公開デー

【開催日時】平成30年11月17日（土）10:00～15:00

【開催案内チラシ】<http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/info00088.html>

【内容】

公開セミナー 13:00～14:00（受付12:30～）資料館会議室

(1)おいしい！”葵美人” ～農林技術研究所開発のもち米～

水田農業生産技術科 外山主任研究員

(2)おいしいトマトの秘密

野菜生産技術科 田島主任研究員

(3)温室メロンのおいしさと機能性 ～GABAとは？～

加工技術科 豊泉主任研究員

研究成果の展示

温室ガイド&クイズラリー

【申込み】参加費無料、定員45名。お申込みは、上記の開催案内チラシの参加申込用紙  
に必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールでお申込み下さい。

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○アグリビジネス創出フェア 2018

【開催日時】平成30年11月20日（火）～22日（木）10:00～17:00

【開催場所】東京ビッグサイト 西-1ホール（東京都江東区有明3-11-1）

【開催概要】<http://agribiz-fair.jp/about.php>

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、  
下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下  
記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆4◆ 平成30～31年度競争的研究資金等について

☆平成31年度地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (JST)

<http://www.jst.go.jp/global/koubo.html>

分野等：

1. 環境・エネルギー分野「地球規模の環境課題の解決に資する研究」
2. 環境・エネルギー分野「低炭素社会の実現に向けた先進的エネルギーシステムに関する研究」
3. 生物資源分野「生物資源の持続可能な生産と利用に資する研究」
4. 防災分野「持続可能な社会を支える防災・減災に関する研究」

公募期間：平成30年9月11日～11月12日

☆平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成30年11月30日締切（第2回）

平成31年 3月29日締切（第3回）

☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合 (ICT × ○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept : 概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成30年4月12日～平成31年3月29日

☆平成 31 年度環境研究総合推進費 (独立行政法人・環境再生保全機構)

<http://www.erca.go.jp/suishinhi/koubo/index.html>

分野等：統合領域、低炭素領域、資源循環領域、自然共生領域、安全確保領域

公募期間：平成30年9月27日～11月1日

.....  
☆平成 31 年度 NEDO 先導研究プログラム／新技術先導研究プログラム (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA1\\_100193.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA1_100193.html)

分野等：(1)省エネルギー、新エネルギー、CO2 削減等のエネルギー・環境分野 (エネルギー・環境新技術先導研究プログラム)

(2)新産業創出に結びつく産業技術分野 (新産業創出新技術先導研究プログラム)

まず、RFI(本事業で取り組むべき研究開発内容についての情報収集)が行われ、提供された情報を参考の上、対象となる研究課題が設定され公募が行われます。

公募期間：平成 31 年 2 月上旬～4 月中旬、RIF の締切日 平成 30 年 11 月 30 日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください (下記の URL の後半)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○超多収穫米を利用した高付加価値化加工用米粉原料の生産体系の確立

本研究成果は、農研機構次世代作物開発研究センターが代表機関となり実施された農食研究推進事業 (実用技術開発ステージ) によるものです。GABA、食物繊維等を多く含む発芽玄米全粒粉の製造に適した超多収米を効率的に供給し、消費者が受容しやすい美味しい米粉加工品を開発し、商品化するための研究が行われました。その成果として、(1)低コスト生産を可能とする超多収・発芽処理好適品種が選定され (高アミロース米：和 3210 号、中アミロース米：オオナリ、低アミロース米：和 3205 号)、生産者が品質と収量を確保できる超多収米の栽培技術が確立され、マニュアル化されました。(2)発芽玄米の量産が可能な発芽処理技術が確立され、発芽玄米全粒粉の製造工程が構築されました。(3)発芽玄米処理をした玄米全粒粉は、GABA、フェルラ酸、食物繊維が、未処理と比べて著しく増加していました。(4)発芽玄米全粒粉を利用したグルテン添加米粉パン、煎餅、パンケーキ、和菓子、麺製造のための加工用米粉原料を開発されました。(農林水産省「研究紹介 2018」から引用)

・農林水産省・研究紹介 2018：当研究会にご照会下さい (本メールマガジンの末尾の E-mail 宛)。

## ☆園芸関係（野菜・花き）

### ○臭いや黄変が生じないダイコン品種の育成とその普及に向けた安定生産技術・食品開発

本研究成果は、農研機構・野菜花き研究部門が研究代表機関となり実施された農食研究推進事業（実用技術開発ステージ）によるものです。大根加工品では、大根臭や黄変の発生により品質低下にかかわる問題が生じることがあります。そこで、本研究の成果として、(1)これを解決するために、その原因となる成分であるグルコラファサチンを含まないダイコン F1 品種を育成しました（「悠白」及び「サラホワイト」）。(2)「悠白」はたくあん漬けをはじめとする漬物原料用に、「サラホワイト」は大根下ろし、サラダ等の生食用、切り干し大根等の原料用に適しています。(3)両品種の安定栽培技術を確立し、栽培と利用に関するマニュアルを作成しました。（農林水産省「研究紹介 2018」から引用）。

・農林水産省 HP：農食研究推進事業採択課題の内容

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26092c\\_gaiyou.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26092c_gaiyou.pdf)

### ○華麗な「かがり弁」の花びらを有する輪ぎく新品種の開発

愛知県は、愛知県農業総合試験場の 10 大成果を 2017 年 11 月に記者発表しましたが、その中で「華麗な花びら『かがり弁』の輪ぎく新品種の開発」を第 1 位に挙げています。本品種の開発は、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構と共同開発されました。イオンビームを照射することによって、輪ぎくの花びらの色や形に特徴を有する新品種が開発され、2017 年 11 月に品種登録の出願がなされました。本品種は、新奇性が高く、祝い事やフラワーアレンジメントなどの分野で新たな需要開拓が期待されています。

・愛知県記者発表：キーワード「愛知県農業総合試験場→研究の成果→記者発表→29・11」で検索して下さい。

### ○生薬「芍薬」生産を目的とした切り花兼用芍薬品種の選定と栽培条件

高齢化社会の進展に伴い、需要が増大すると予想される漢方薬原料の安定確保に向けた国内生産体制の構築が求められています。三重県農業研究所は、高需要生薬であるシヤクヤクを北勢地域黒ボク地帯を主産地とする植木類の代替品目候補に位置づけ、生薬有効成分の含有率の高い切り花兼用品種とその最適栽培条件を明らかにしました。

・三重農研成果情報（普及成果）：<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000715729.pdf>

・三重農研・成果情報：<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000715746.pdf>

## ☆林業関係

### ○西南日本に適した木材強度の高い新たな造林用樹種・系統の選定及び改良指針の策定

本研究成果は、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所が代表機関となって実施された農食研究推進事業（発展融合ステージ）によるものです。西南日本では強度

と成長ともに優れた樹種がなく輸入材に依存している状況にあります。そこで、本研究において、中国及び台湾原産コウヨウザンに着目し、国内に生育するコウヨウザンの遺伝的多様性の評価と優良系統の選抜、木材特性の評価等を行いました。その成果として、(1)コウヨウザンの我が国における生育適地は照葉樹林帯であり、生育適地における成長は、同一地域のスギの約2倍であることを明らかにしました。(2)壮齢林の材料で試作した平角材で材質を比較すると、曲げヤング係数でE110相当のものが多く、曲げ強度においてスギを上回り、ヒノキと同等の性能を示しました。(3)DNA分析により、国内で生育するコウヨウザンは中国南部由来、中国東部由来及び台湾由来の3つに分類されました。(4)優良クローンを選定すると共に、種子及び挿し木による増殖法を明らかにしました。(農林水産省「研究紹介 2018」から引用)

・農林水産省 HP：農食研究推進事業採択課題の内容

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27003b\\_gaiyou.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/27003b_gaiyou.pdf)

・近藤(2017)コウヨウザン研究の現状. 森林遺伝育種 第6巻 143-147.

[http://www.fgtb.jp/pdf/2017/10m/FGTB\\_V6N4\\_feature\\_article3.pdf](http://www.fgtb.jp/pdf/2017/10m/FGTB_V6N4_feature_article3.pdf)

.....

#### 編集後記

9月に台風21号で大きな被害を受けたばかりですが、伊勢湾台風並みの高潮が心配された台風24号は、大きな被害を各地に残して日本列島を横断し、三陸沖から太平洋に抜けて北海道沖で温帯低気圧に変わりました。台風24号が最接近した時刻と名古屋港の満潮時刻が少しずれて、幸いにも記録的な高潮には至らなかったと聞きました。

さて、流通現場でのさまざまな動きについて述べられている、伊藤元重著「流通大変動～現場から見えてくる日本経済～」(NHK出版新書：2014年初版発行)を読みました。日本経済の理解には、グローバル化の進展、少子高齢化の影響などの大きな流れの中で、さまざまな産業や企業、そして消費者がどのように動いているかを知ることが重要であり、血の通った人間の動きを見ないでは本当の経済は分からないのかもしれないと筆者は述べています。筆者により多くの現場での話が語られる中で、コンビニエンスストアの話があります。いまやコンビニを抜きにしては日本の流通業を語れないほど日本はコンビニ大国です。1974年にアメリカのコンビニエンスストアであるセブン-イレブンを、イトーヨーカ堂が日本に導入しました。日本のコンビニの重要な特徴は、フランチャイズ制度の積極的な活用であり、コンビニ本部にとってみれば、コンビニの立地を確保して店をつくる資本コストの節約が可能となります。もう一つの特徴は、POS情報技術のフル活用と述べています。それは効率的な物流や販売を実現して、それほどのコストをかけずに効率的な店舗運営を実現しており、この情報武装はPontaやTポイントを利用した顧客情報の管理に繋がっていきます。日本のコンビニの品揃えの特徴は、おにぎりやおでん、弁当のような中食(なかしょく)を重視し、家やオフィスですぐに食べることができ、食の変化の中で急速に拡大した市場を見事に捉えていることです。コンビニにとって中食は重要な商材であり、著者の思い当たったことに、日本社会の高齢化をあげています。高齢者が簡単に食事できるような弁当や総菜の品揃えを増やすことはますます必要となるだろうと述べています。

また、農業の六次産業化について、流通の側からの見方を紹介しています。農家は農作業をするだけ。JA や青果市場が流通を行う。外食産業、スーパー、食品加工企業は農業に口を出さない。こうした垂直分業から、いろいろな動きが出てきていることを例にあげています。農業者の中にも食品加工やインターネット販売などで直接消費者に売ることに活路を見出そうとする例や、大手スーパーが自ら農業活動に関与する例などが挙げられています。

本書を読んで、日常生活で体験する様々な流通現場の動きには、実際に肌で感じられるものが多くあり、刺激に充ちたビジネス材料でもあることを教えられました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研 ～ メールマガジン 第167号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
- ☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (11月28日)
- ☆アグリビジネス創出フェア 2018 in 東海 (31年1月29～30日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆平成30年度東海農政局「食品安全セミナー(11月)」 (11月29日)
- ☆平成30年度東海地域マッチングフォーラム (11月15日)
- ～土壌養分の簡易計測と地域資源の利用による施肥コスト削減～
- ☆植物ゲノム編集技術ワークショップ (11月16日)
- ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 11月度研究会 (11月22日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆アグリビジネス創出フェア 2018 (東京ビッグサイト) (11月20日～22日)
- ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- 平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業のうち社会実装促進
- 業務委託事業 (第2回公募) (農林水産省農林水産技術会議事務局)
- ☆平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
- 企業主導フェーズ: NexTEP - A タイプ
- ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP (JST)
- 未来創造ベンチャータイプ
- ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)
- ☆平成30年度 研究開発型ベンチャー支援事業/企業間連携スタートアップの
- 事業化支援 (第2回公募) (NEDO)
- ☆平成31年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナーの開催について

去る9月4日に開催予定でしたが、台風21号の接近のため中止した第2回セミナーを下記の通り改めて開催することになりましたので、ご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

【開催日時】平成30年11月28日(水) 13:00～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 1003会議室  
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38 Tel 052-571-6131)

【開催案内】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2179>

【主催】農林水産省、NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【アクセス】・JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分  
・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【内容】

○林産部会 13:00～13:45

「薬用植物由来ポリフェノールと生物活性」

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 助教 山内恒生 氏

○水産部会 13:45～14:30

「愛知県のアサリ漁業と減耗要因の検討」

愛知県水産試験場漁業生産研究所 主任研究員 松村貴晴 氏

○食品部会 14:30～15:15

「果実(柿等の規格外品)のペクチンを利用した介護用食品・機能性表示食品の  
開発」 岐阜大学応用生物科学部 教授 矢部富雄 氏  
(休憩)

○作物部会 15:30～16:15

「自家受粉が可能なニホンナシ新品種「なるみ」等のナシ品種育成の現状」

農研機構果樹茶業研究部門 品種育成・病虫害研究領域上席研究員 齋藤寿広 氏

○畜産部会 16:15～17:00

「肉牛生産におけるSPAY(卵巣摘出手術)のメリットと活用事例」

モーモークリニック 院長 大久保幸弘 氏

『技術相談』のある方は受付のみさせていただきます 後日、対応させていただきます。

\*情報交流会 17:15～18:45(同じ会場 1003)

会費 2,500円(事前申し込みが必要)

【参集範囲】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会会員、農林水産・  
食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、大学・高校等教育機関、  
国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、  
生産者、その他

【参加費】 無料



【参加申込】上記の「開催案内」の URL から「参加申込書」を取り出し、必要事項をご記入の上、ファックス又は電子メールでお送り下さい。

.....

☆アグリビジネス創出フェア2018 in 東海

【開催日時】平成31年1月29日10:00～30日16:00

【開催場所】ウインクあいち 6階展示場

【開催概要】

開会式(29日)

研究発表(29日午前 研究・教育機関の研究成果、企業の研究成果予定)

ブース展示(29日～30日)

企画展示(1)いちごマッチングフォーラム in 東海

企画展示(2)東海・近畿地域の農林水産物加工品の展示

ポスター展示

技術相談コーナー(29日～30日随時)産学連携支援コーディネータが対応

【出展募集の開始】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2250>

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー(11月)」

【開催日時】平成30年11月29日(木) 13時30分～16時

【場所】名古屋能楽堂(名古屋市中区三の丸1-1-1)

【主催】東海農政局

第一部 13:30～14:35

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部職員

「GAPについて」

講師：東海農政局 生産部 生産技術環境課長 長友 秀昌 氏

第二部 14:50～15:50

「食中毒を防ぐために」

講師：中部大学 応用生物学部 食品栄養科学科 教授 森山 龍一 氏

【開催案内】<http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/index.html>

【参加】参加費無料、定員 先着 40 名になり次第締め切られます。

【参加申込】上記開催要領の URL から FAX 又はインターネットでお申込み下さい。

【お問い合わせ】消費・安全部 消費生活課 担当者：森(啓)、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線 2810)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX：052-220-1362

申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の開催案内にございます。

食品安全セミナー（第2部）今後の予定

<http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/attach/pdf/index-12.pdf>

.....  
☆植物ゲノム編集技術ワークショップ

【開催日時】平成30年11月16日(金) 13:30～16:30

【開催場所】アスト津4階 研修室A（三重県津市羽所町700番地）  
近鉄、JR津駅から徒歩1分

【詳細】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2018/09/082669.html>

【内容】上記の「詳細」参照

【主催】農研機構 生物機能利用研究部門

【参加申込】上記の「詳細」にある申込みサイトを利用してお申込み下さい（11月12日  
締切）。参加費無料

.....  
☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 11月度研究会

【開催日時】平成30年11月22日(木) 14:00～17:00

【開催場所】名古屋市市民活動センター 研修室  
ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階  
(名古屋市中区栄三丁目18-1)

【行事ご案内】<https://www.crn2011.jp/>

【講師】1. 14:00～15:20

「伊勢湾の海洋ゴミと長期的水質変化」

四日市大学環境情報学部 千葉 賢 氏

2. 15:30～17:00

「三河湾の漁業と環境」

愛知県水産試験場(本場) 漁場環境研究部長 蒲原 聡 氏

【会費】会員 無料、 会員外 1,000円 (学生500円)

定員 60名

【懇親会】講師を囲んでの懇親会を予定

自由参加・当日受付・第1部終了後に締切、 会費 3,000円

会場 中国料理・シルクロード上前津店(名古屋市中区大須4-11-61)

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○アグリビジネス創出フェア2018

【開催日時】平成30年11月20日(火)～22日(木) 10:00～17:00

【開催場所】東京ビッグサイト 西-1ホール(東京都江東区有明3-11-1)

【開催概要】<http://agribiz-fair.jp/about.php>

【東海生研分展示】西－1 ホールのメインステージ近くの「人ゾーン」に「地域産学連携  
コンソーシアム」の展示場所があり、この一角に東海生研分を展示し  
ています。展示は、(1)「テッポウユリ類育種コンソーシアム」、(2)  
黒ウコンジャパン(株)、(3)大有コンクリート工業(株)、(4)三健食品  
(株)、(5)NPO 法人東海生研が行います。

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、  
下記 URL の通りです。<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報の URL は下  
記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成 30～31 年度競争的研究資金等について

☆平成 30 年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業のうち社会実装促進業務委託  
事業（第 2 回公募）（農林水産技術会議事務局）

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/181025.html>

分野等：被災地内に設ける社会実装拠点を核として、情報発信、現場指導、技術  
研修等を通じて、食料生産地域再生のための先端技術展開事業における  
研究成果の社会実装を促進する。

公募期間：平成 30 年 10 月 25 日～11 月 30 日

☆平成 30 年度 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）（JST）

企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの  
実用化開発を支援する。

公募期間：平成 30 年 11 月 30 日締切（第 2 回）

平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ（JST）

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴  
う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 30 年 11 月 30 日締切（第 2 回）

平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ（JST）

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 30 年 11 月 30 日締切（第 2 回）

平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合 (ICT × ○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成 30 年 4 月 12 日～平成 31 年 3 月 29 日

☆平成 30 年度 研究開発型ベンチャー支援事業/企業間連携スタートアップの事業化支援 (第 2 回公募) (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100192.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100192.html)

分野等：事業会社と連携して事業開発を行う研究開発型ベンチャーを支援する。

公募期間：平成 30 年 10 月 18 日～11 月 22 日

☆平成 31 年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA1\\_100193.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA1_100193.html)

分野等：(1)省エネルギー、新エネルギー、CO2 削減等のエネルギー・環境分野 (エネルギー・環境新技術先導研究プログラム)

(2)新産業創出に結びつく産業技術分野 (新産業創出新技術先導研究プログラム)

まず、RFI(本事業で取り組むべき研究開発内容についての情報収集)が行われ、提供された情報を参考の上、対象となる研究課題が設定され公募が行われます。

公募期間：平成 31 年 2 月上旬～4 月中旬、RIF の締切日 平成 30 年 11 月 30 日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください (下記の URL の後半)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○マウス加齢性難聴を指標とした抗老化食品素材の短期間スクリーニング評価

本研究成果は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門が代表機関となって実施された農食研究推進事業（シーズ創出ステージ）によるものです。食品の機能性に関して、老化を対象とした研究は、長期間を要するために進んでいません。本研究では、動物試験レベルで抗老化効果の根拠を得るために、マウス加齢性難聴の抑制効果を指標として、抗老化食品素材の探索が行われました。その結果、マウス加齢性難聴の抑制効果が有意に認められたのは、42種類の農産物素材のうちでは、春菊及びキンカン、8種類の乳酸菌のうちでは乳酸菌 H61 株でした。また、マウス加齢性難聴抑制効果と相関が高いバイオマーカーが、血中代謝物、乳酸菌中代謝物に認められました。

・農林水産省「研究紹介 2018」

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public\\_offering/agri\\_food/2018/27008a.html](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/27008a.html)

・大池 (2017) タマゴによるマウス加齢性難聴の抑制. *Nippon Shokuhin Kagaku Kogaku Kaishi*, 64(2), 104-107.

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/nskkk/64/2/64\\_104/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/nskkk/64/2/64_104/_pdf/-char/ja)

#### ☆園芸関係（花き）

##### ○植物成長調整剤によるコショウランの品質向上技術を開発

本研究成果は、愛知県農業総合試験場で開発されたものです。コショウラン栽培では、長い花茎や、花数の多い鉢物の生産が需要者から求められています。そこで、本研究においては、濃度 100ppm のジベレリン溶液を長さ 5~20cm の花茎に 1 週間おきに 2 回散布することにより、花茎を長を 6~7cm 伸ばすことができ、また、濃度 30ppm のベンジルアデニン溶液を蕾が 6~7 個着いた花茎の先端に 1 週間おきに 10 回処理すると、花数を 11.7 輪増やすことができました。今後、両剤の農薬登録を目指します。

・愛知県農業総合試験場 HP：2017 年愛知県農業総合試験場の 10 大成果

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/255339.pdf>

#### ☆病虫害関係

##### ○輸出入植物検疫処理の円滑化等に資する新たなくん蒸技術の確立

本研究成果は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門が代表機関となって実施された農食研究推進事業（実用技術開発ステージ）によるものです。生果実を輸出する場合に、(1)圃場で発生する害虫の防除技術、(2)従来使用されてきた臭化メチルに替わる新たなくん蒸技術が必要となっています。そこで、本研究では、臭化メチルの代替え技術として、ヨウ化メチル及びリン化水素によるくん蒸技術を開発するとともに、モモ、カンキツ、ブルーベリー生果実の害虫の圃場での防除技術を開発しました。具体的な研究成果としては、(1)サイロにおける穀物類のリン化アルミニウムの空間部投薬循環技術が開発されました。(2)上記の生果実等についてヨウ化メチルによるくん蒸技術が確立され、「くん蒸基準（案）」が作成されました。(3)上記の生果実の収穫前の被害を可能な限り防ぐための対象害虫の圃場での防除技術が開発されました（農林水産省「研究紹介 2018」から引用）。

- ・農研機構 HP：「輸出入植物検疫処理の円滑化等に資する新たなくん蒸技術の確立」  
成果事例集

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/pub2016\\_or\\_later/files/kunjo-jirei\\_201803.pdf](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/pub2016_or_later/files/kunjo-jirei_201803.pdf)

#### ☆水産関係

#### ○幻の赤海苔「カイガラアマノリ」の農水工連携による陸上養殖技術の開発

本研究成果は、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校が代表機関となって実施された農食研究推進事業（実用技術開発ステージ）によるものです。カイガラアマノリは、東京湾、伊勢湾及び瀬戸内海の一部で生育する希少な海藻です。これまで瀬戸内海沿岸の干潟で本種の着生基盤による養殖が行われてきましたが、冬季の重労働と不安定な生育環境により、収穫量が激減しています。そこで、本研究により、カイガラアマノリの陸上養殖技術が開発され、「カイガラアマノリの陸上養殖のてびき」が作成されました。陸上養殖されたカイガラアマノリは、天然産と同様のアミノ酸組成で、健康機能性として抗アレルギー成分を含有することが確認されました。現時点の生産量は、1か月で500L水槽1基当たり2.8kgであり、水槽40基、年14回の収穫、常勤1名、パート2名などの生産規模・体制で黒字化することが示されました（農林水産省「研究紹介2018」から引用）。

- ・農林水産技術会議事務局 HP：幻の赤海苔「カイガラアマノリ」の農水工連携による陸上増養殖技術の開発

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public\\_offering/agri\\_food/2018/27029c.html](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/27029c.html)

- ・農林水産省「研究紹介2018」：

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public\\_offering/agri\\_food/2018/pdf/27029c.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/pdf/27029c.pdf)

.....  
編集後記

最近の国際情勢は大きな出来事が多く目が離せません。10月31日にはオーストラリアがTPP11（環太平洋連携協定）の批准を終え、加盟11か国のうち発効に必要な6か国が批准し、今年12月30日に発効することになります。また、日欧EPA（経済連携協定）の国内手続きのための法案が11月6日に国会に提出され、今国会で承認されまると、来年2月1日に発効することになりそうです。両協定が発効すると日本の実質GDP（国内総生産）は大幅に押し上げられると予想されています。一方、海外からの農林水産物の輸入品の関税の段階的引き下げ、あるいは関税撤廃なども予定され、大きな影響がありそうです。更に、米国の中間選挙が終わり、来年1月には日米物品貿易協定の交渉も始まります。来年以降、これら協定の発効に伴う日本農業への影響の克服に向け正念場を向かえることになります。

ところで、最近読んだ本に、田中潤・松本健太郎著「誤解だらけの人工知能～ディープラーニングの限界と可能性～」(光文社新書：2018年初版発行)があります。筆者の田中氏は、人工知能を使った対話エンジンなどを開発するベンチャー企業の代表を務め、人工知能の現状にたいへん詳しい専門家です。松本氏は情報学を専門とし、政治、経済、文化などを分析・予測する仕事をされています。情報のことが分かった松本氏が、人工知能の

専門家である田中氏に的確な質問をして答えてもらうという形で本書が編集されていますので、難しい内容が非常に分かりやすくなっています。

人工知能の核心をなすディープラーニングの手法を駆使することによって、将棋、囲碁等の世界では、既に名人が人工知能にかなわなくなっていますが、人工知能の導入を検討あるいは構築にかかっている業界も少なくありません。しかし、著者は、現段階におけるディープラーニングの特徴、限界などを良く認識しないと大きな間違いとなることを強調しています。特に、画像識別などの識別能力は極めて優れていますが、演繹的能力はまだ殆どないというのが現状のようです。従って、人工知能によってできること、難しいことが自ずと分かってきます。しかし、この先どうなるのかについて、2020年代、30年代、45年以降と分けて、それぞれの時代に人工知能は何ができるようになっていくのかを予想しています。将来的に、私たちは社会に浸透する人工知能にどのように対応すべきかについても述べています。本書は、AI企業の開発当事者が、人工知能の現在と未来をどのように考えているのかを知るための貴重な読み物ですので、企業人必読の書ではなからうかと思いました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝

東海生研 ～ メールマガジン 第168号～  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝

- \*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*
- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
    - ☆アグリビジネス創出フェア 2018 in 東海 (31年1月29～30日)
    - 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
      - ☆平成30年度 食品安全セミナー(12月) (12月14日)
      - ☆シンポジウム「あなたの食、今と未来～変化する食と農林水産業～」 (12月22日)
    - 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
    - 4. 競争的研究資金について
      - ☆平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
      - NexTEP Aタイプ 企業主導フェーズ
      - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)
      - ☆平成30年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
      - ☆平成30年度 ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)
      - ☆民間の競争的研究資金
    - 5. 新技術情報について
- \*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆アグリビジネス創出フェア2018 in 東海  
 【開催日時】平成31年1月29日(火) 10:00～17:00  
 30日(水) 10:00～16:00  
 【開催場所】ウインクあいち 6階展示場  
 アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>  
 【開催案内チラシ】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2339>  
 【プログラム】  
 開会式(29日) 10:00～10:30  
 成果発表(29日 10:20～12:00 研究・教育機関/企業の研究成果)  
 ブース展示(29日 12:00～30日 16:00)  
 企画展示(1) 東海・近畿地域の農林水産物加工品の展示  
 企画展示(2) 東海4県のオリジナルいちご品種の展示及び地域農業研究の紹介  
 ポスター展示(29日 12:00～30日 16:00)  
 技術相談(29日～30日随時) 東海生研のコーディネータが各種相談に対応致します。事前にお申し込み下さい(申込書は上記「開催案内チラシ」の裏面にあります)。  
 【出展募集】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2250>



- 【主催】農林水産省農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会  
【共催】東海地域農業関係試験研究機関、NPO法人近畿アグリハイテク

- 同時開催イベント：「いちごマッピングフォーラム in 東海」  
【開催日時】平成31年1月30日（水）13：20～16：00  
【会場】ウインクあいち 6階展示場  
（「アグリビジネス創出フェア2018 in 東海」と同じ）  
【内容】（1）東海4県のいちご品種、研究の紹介 13:30～14:30  
（2）基調講演 14:30～15:30  
「県限定生産苺ブランドをどう育て、どう売っていくのか？」  
講師：苺のお菓子研究家  
メゾン・ド・フルージュ 苺のお店（京都市中京区）  
代表取締役 渡部美佳 氏  
（3）東海4県「いちご」オリジナル品種の試食、アンケート（15:35～16:00）  
【主催】東海地域農業関係試験研究機関（岐阜県農業技術センター、岐阜県中山間農業研究所、静岡県農林技術研究所、愛知県農業総合試験場、三重県農業研究所）  
【お問い合わせ先】NPO 東海生研 電話& FAX：052-789-4586

◆ ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー(12月)」

- 【開催日時】平成30年12月14日（金）13時30分～16時  
【場所】名古屋能楽堂（名古屋市中区三の丸1-1-1）  
【主催】東海農政局  
第一部 13:30～14:05  
「食品安全と行政の取組」  
講師：東海農政局 消費・安全部職員  
第二部 14:20～15:50  
「遺伝子組換え作物の現状と課題」  
講師：名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科 教授 湯川 泰 氏  
【開催案内】[http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/181107\\_12.html](http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/181107_12.html)  
【開催チラシ】[http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/181107\\_12-1.pdf](http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/181107_12-1.pdf)  
【参加】参加費無料、定員 先着 70 名になり次第締め切られます。  
【参加申込】上記「開催案内」の URL から申込書を取り出し、ご記入のうえ、FAX 又はインターネットでお申込み下さい(申込期限：12月12日)。  
【お問い合わせ】消費・安全部 消費生活課 担当者：森（啓）、奥川、青木様  
代表：052-201-7271(内線 2810)  
ダイヤルイン：052-223-4651  
FAX：052-220-1362  
申込方法、参加申込書、会場案内図、お問い合わせ先は、上記の「開催案内」にあります。

☆シンポジウム「あなたの食、今と未来～変化する食と農林水産業～」

- 【開催日時】平成30年12月22日（土）13時30分～17時  
【開催場所】名古屋大学東山キャンパス 工学部 IB 電子情報館 2階大講義室  
（名古屋市千種区不老町）  
アクセス：下記「開催案内」をご覧ください。  
【開催案内】東海農政局ホームページ：  
<http://www.maff.go.jp/tokai/press/kikaku/181122.html>  
【主催等】主催：椙山女学園大学、名古屋大学大学院生命農学研究科、東海農政局  
共催：愛知学院大学、岐阜大学、中部大学、三重大学大学院生物資源学研究科、名城大学

【内容】

1. 基調講演

「近未来の食料と農業・農村」

福島大学 食農学類準備室長・教授 生源寺 眞一 氏

2. 講演

「納豆・豆乳は、今なぜブームなのか？」

椙山女学園大学 生活科学部 教授 江崎 秀男氏

「植物基礎研究を用いた作物の改良」

名古屋大学 生物機能開発利用研究センター 教授 芦苺 基行氏

「水圏生態系の中に成り立つ水産業」

三重大学大学院生物資源学研究科 助教 伯耆 匠二氏

3. 情報提供

「食料と農林水産業をめぐる政策や事例の紹介」

東海農政局

【参加申込み】参加費無料、先着 200 名

申込期限 平成 30 年 12 月 20 日（土）17:00

申込方法は上記「開催案内」をご覧ください。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成30～31年度競争的研究資金等について

☆平成30年度 研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）（JST）  
企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切

☆平成 30 年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)  
<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切 (第 3 回)

☆平成 30 年度 産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)  
<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切 (第 3 回)

☆平成 30 年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!)  
(総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合 (ICT×○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成 30 年 4 月 12 日～平成 31 年 3 月 29 日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください (下記の URL の後半)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○紫黒米と黒大豆中の総アントシアニン量を測定する分析法の妥当性確認

本研究成果は、農研機構九州沖縄農業研究センターの研究結果によるものです。紫黒米と黒大豆はアントシアニンを含み、機能性食品素材として注目されていますが、それらを分析対象材料として標準化されたアントシアニン分析法は存在しませんでした。分析法の標準化のためには、試験所間比較を実施し、分析法の妥当性を確認する必要があります。そこで、総アントシアニンの測定法として pH differential 法を選定し、紫黒米と黒大豆を分析対象資料とした場合の妥当性を検討した結果、0.50～2.71mg/g (平均値) の範囲内において分析法の妥当性が確認されました。

・データベース AgriKnowledge：<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/235838>

☆米麦関係

○生育後期重点施肥によるコムギの収量性の向上とその乾物生産過程

都府県におけるコムギの平均収量は、現在 320kg/10a 前後です。これを 20～30kg 高

めるための技術として、欧州等のコムギ多収国で行われている生育後期重点型の施肥体系が、日本のように気候が温暖な、しかも水田転換畑においても可能であるのかどうか、耐倒伏性の新品種「さとのそら」を用いて検証が行われました。その結果、基肥施用量を減らし、茎立期追肥をする生育後期重点施肥により、コムギ「さとのそら」の収量は、慣行の基肥重点施肥に比べて22~45%増加し、総窒素施用量を19kg/10aまで増やした区では600kg/10a以上の多収となりました。但し、生育後期重点施肥では、機械収穫適期の遅れ、外観品質の低下、子実タンパクの過剰、うどんこ病やさび病などを助長することがあるなど改善すべき点も指摘されています。なお、本研究成果は、農研機構中央農業研究センターの研究成果から引用しました。

・農研機構ホームページ：中央農業研究センター2016年の成果情報

[http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/4th\\_laboratory/carc/2016/carc16\\_s02.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/4th_laboratory/carc/2016/carc16_s02.html)

・渡邊ら(2016)生育後期重点施肥がコムギの生育と収量に及ぼす影響. 日作紀(Jpn. J. Crop Sci.), 85(4), 373-384. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcs/85/4/85\\_373/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcs/85/4/85_373/_pdf)

#### ☆園芸関係(野菜)

##### ○CO<sub>2</sub>施用と加湿制御を組み合わせた場合のトマトの生育と養分吸収

施設栽培における湿度条件は光合成速度に大きく影響します。これは、湿度が高くなると気孔が開きやすくなり、葉内にCO<sub>2</sub>が取り込まれやすくなるとされています。このため、CO<sub>2</sub>施用を行う場合に施設内の湿度を高く維持することが行われています。しかし一方、CO<sub>2</sub>施用時に湿度を高く管理しても収量が高くない事例も有ります。これは、湿度を高くしすぎると蒸散量が低下するので養分吸収量が減少し、その結果、葉のN、P、K、Ca、Mgの含有率が低下します。本研究では、加湿有無、ECの高低等の条件を設定して、乾物重、各成分含有率に及ぼす影響を示しており、湿度管理方法の参考となると思われます。本研究成果は、農研機構野菜茶業研究所(現野菜花き研究部門)が研究代表機関となり実施した農食研究推進事業により得られました。

・データベース Agriknowledge : <https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/3010028499>

#### ☆病害虫関係

##### ○土着天敵を活用する害虫管理最新技術集と事例集

本研究成果は、農林水産省の委託プロジェクト「土着天敵を有効活用した害虫防除システムの開発(2012~2015年)」により生まれたものです。野菜や果樹の重要害虫であるアザミウマ類やハダニ類では、農薬に対して抵抗性を有する系統が発生し、防除が難しくなっています。このため、土着天敵を活用しながら防除を行う新たな手法が開発されました。すなわち、圃場の内外に天敵を温存する特定の植物を植栽するとともに、天敵には影響の少ない殺虫剤を使用して土着天敵の定着・増殖を促すことにより、薬剤抵抗性を発達させ難防除害虫となっているアザミウマ類やハダニ類等を安定的に管理するものです。ナス、ネギ等の野菜や、カンキツ等の果樹における土着天敵の活用技術について、普及用の「最新技術集」及び代表的な技術をパンフレット形式でまとめた「事例集」もインターネットで公表されています。

・農研機構 HP : 中央農業研究センター2016年の成果情報

[http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/4th\\_laboratory/carc/2016/16\\_059.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/4th_laboratory/carc/2016/16_059.html)

・農研機構 HP : 刊行物詳細「土着天敵を活用する害虫管理 最新技術集/天敵を活用する害虫管理技術 事例集」

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/069415.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/069415.html)

.....

## 編集後記

師走にもかかわらず各地で夏日続出の異例な暖かさで12月がスタートしましたが、続いて寒さも到来し、少し身に染みてきました。風邪などをひきませんようお気を付けてください。

さて、10月号の編集後記で、流通の現場について述べた伊藤元重著「流通大変動～現場から見えてくる日本経済～」(NHK出版新書：2014年初版発行)を読み、「いまやコンビニを抜きにしては日本の流通業を語れないほど日本はコンビニ大国です。」と書きました。小生も週のうち何回かはコンビニで買い物をします。その時に気づくことは、どの大手のコンビニのレジでも何回かは外国人のスタッフが対応してくれます。彼らの言葉に違和感はなく、スムーズに日本語を話すため、今のところ買い物に困ったことはありません。彼らはアジア出身の人が多く、中国やタイ、ベトナム、ネパールからの人たちと思われまふ。彼らにとっては外国語である日本語を上手に話し、習慣の異なる日本で違和感のない接客ができることには驚かされます。どうして短期間のうちに、そんなことが出来るようになるのでしょうか。

文藝春秋11月号(2018)の中にある、芹澤健介著「コンビニ外国人は何しに日本へ」の記事で、その答えの一端が見えたように思いました。十兆円産業と言われるコンビニは、全国に5万5千店を超えていると書かれており、更なる拡大を打ち出している。その現場は慢性的な人手不足で悩んでおり、そんな中で存在感を増しているのが、外国人であると書いています。全国のコンビニで働く外国人の数は、大手三社(セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン)だけで5万人を超えているそうです。

彼らの多くは、留学ビザでの在留資格を持つ留学生であるらしい。留学ビザでのアルバイトは可能で、コンビニ各社は、外国人留学生をアルバイト雇用する為に、店舗に備える接客マニュアルの多言語化や留学生を雇用するオーナー向けの説明会を開いて環境を整えているようです。また、来日直後から即戦力となれるように、レジの扱い方や接客方法を現地でもトレーニングをしているそうです。著者は、外国人労働力の奪い合いや、コンビニでの心無い客からの差別にも触れております。

外国人労働者の受け入れを拡げるための出入国管理法改正案が11月27日に衆議院本会議で可決されましたが、人口が減少していく日本では、いろいろな分野や場面で外国人とどのように関わり共生していくかは、重要な課題の一つと思われまふ。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

平成31年1月10日発行

＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝

東海生研 ～メールマガジン 第169号～  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

新年あけましておめでとうございます！

＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝－＝

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業
- ☆平成31年度農林水産技術会議事務局競争的資金に係る事業・公募説明会 (1月21日)
- ☆アグリビジネス創出フェア in 東海 (1月29～30日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆平成30年度 食品安全セミナー (1月) (1月17日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆平成31年度 イノベーション創出強化研究推進事業 (農林水産省)
- ☆平成30年度第2次補正予算 スマート農業技術の開発・実証プロジェクト (農林水産省)
- ☆平成31年度 スマート農業加速化実証プロジェクト (農林水産省)
- ☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
- NexTEP-A タイプ企業主導フェーズ
- ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 (JST)
- NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
- ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆平成30年度 ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 平成30年度「知」の集積による産学連携支援事業

☆平成31年度農林水産技術会議事務局競争的資金に係る事業・公募説明会

【開催日時】平成31年1月21日(月) 13時～16時  
【開催場所】AP名古屋. 名駅 (IMAIビル8階) BCD室  
(名古屋市中村区名駅4丁目10-25)

地図:[http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan\\_kankyo/attach/pdf/181225\\_14-3.pdf](http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan_kankyo/attach/pdf/181225_14-3.pdf)

【主催】農研機構生研支援センター、NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【プレスリリース】

<http://www.biotech-tokai.jp/biotech/wp-content/uploads/2018/12/>

予定競争的資金事業等説明会.pdf

【開催案内】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2377>

【事業・公募説明会の内容】

- (1) 「イノベーション創出強化研究推進事業」について
- (2) 「戦略的プロジェクト研究推進事業」について
- (3) その他の技術会議事務局の研究資金等について

【相談会】事業・公募説明会終了後に、事前申し込みをされた方を対象に、農林水産省産学連携支援コーディネーターによる個別相談会（研究内容に関する相談や研究機関のマッチング等）を実施します。参加申込書に相談内容をご記入下さい。開催場所は、事業・公募説明会場隣のA会議室で16:00から開催致します。

【参加申込み】上記の「開催案内」のURLから参加申込書をダウンロードして、ご記入の上、NPO法人東海地域生物系先端技術研究会までお送り下さい。申込締切日は、1月17日（木）です。

.....

☆アグリビジネス創出フェア in 東海

【開催日時】平成31年1月29日（火）10:00～17:00  
30日（水）10:00～16:00

【開催場所】ウインクあいち 6階展示場  
（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）  
アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【開催案内チラシ】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2339>

【プログラム】

- 開会式（29日）10:00～10:20
- 成果発表（29日10:20～12:00 研究・教育機関/企業の研究成果）
- ブース展示（29日12:00～30日16:00）
- 企画展示(1)東海・近畿地域の農林水産物加工品等の展示
- 企画展示(2)東海4県のオリジナルいちご品種の展示及び地域農業研究の紹介
- ポスター展示（29日12:00～30日16:00）
- 技術相談（29日～30日随時）東海生研のコーディネータが各種相談に対応致します。事前にお申し込み下さい（申込書は上記「開催案内チラシ」の裏面にございます）。

【出展募集】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2250>

【主催】農林水産省農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室  
NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

【共催】東海地域農業関係試験研究機関、NPO法人近畿アグリハイテク

○同時開催イベント：「いちごマッチングフォーラム in 東海」

【開催日時】平成31年1月30日（水）13:20～16:00

【会場】ウインクあいち 6階展示場  
（「アグリビジネス創出フェア in 東海」と同じ会場）

【内容】(1) 東海4県のいちご品種に関する研究の紹介 13:30～14:30  
(2) 基調講演 14:30～15:30

「県限定生産苺ブランドをどう育て、どう売っていくのか？」

講師：苺のお菓子研究家

メゾン・ド・フルージュ苺のお店（京都市中京区）

代表取締役 渡部美佳 氏

(3) 東海4県「いちご」オリジナル品種の試食、アンケート

(15:35～16:00)

【主催】東海地域農業関係試験研究機関（岐阜県農業技術センター、岐阜県中山間農業研究所、静岡県農林技術研究所、愛知県農業総合試験場、三重県農業研究所）

【お問い合わせ先】NPO 法人東海生研 電話&FAX:052-789-4586

## ◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー(1月)」

【開催日時】平成31年1月17日(木) 13時30分～16時

【場所】東海農政局1階 第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】東海農政局

第一部 13:30～14:35

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局消費・安全部 消費生活課職員

「GAPについて」

講師：東海農政局生産部 生産技術環境課職員

第二部 14:50～15:50

「ご存知ですか食品トレーサビリティ」

講師：東海農政局消費・安全部 消費生活課職員

【プレスリリース】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/181219.html>

【開催案内】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/181219-1.pdf>

【参加】参加費無料、定員先着40名になり次第締め切られます。

【参加申込】上記「開催案内」裏面の参加申込書をご覧の上、FAX又はインターネット、又は電話でお申込み下さい(申込期限：1月15日)。

【お問い合わせ】消費・安全部消費生活課 担当者：森(啓)、奥川、青木様

代表：052-201-7271(内線2810)ダイヤルイン：052-223-4651

FAX：052-220-1362

会場案内図は、上記の「開催案内」をご覧ください。

## ◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

## ◆ 4 ◆ 平成30～31年度競争的研究資金等について

☆平成31年度イノベーション創出強化研究推進事業

(農林水産省)

平成31年度イノベーション創出強化研究推進事業の公募予告がありました。

【予算額】4,080(4,132)百万円(継続分を含む)



【公募スケジュール】

- ・公募開始：平成31年1月15日（火）
- ・公募締切：平成31年2月15日（金）
- ・東海地域での公募説明会：1月21日（月）13時～16時、AP名古屋・名駅  
（上記「1」の記事を参照して下さい）

【農研機構・生研支援センターからの知らせ】

<http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/brain/innovation/news/2018/120779.html>

.....

☆平成30年度第2次補正予算 スマート農業技術の開発・実証プロジェクト  
（農林水産省）

【対策のポイント】

国際競争力の強化に向け、近年、技術発展の著しいロボット・AI・IoT等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装を加速化するため、先端技術を生産から出荷まで一貫した体系として速やかに現場に導入・実証する取組等を支援する。

【予算額】6,153百万円（新規）

【事業内容】1. スマート農業技術の開発・実証  
2. データ分析・解析を通じた技術の最適化

【お問い合わせ】農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課（03-6744-7043）

.....

☆平成31年度 スマート農業加速化実証プロジェクト  
（農林水産省）

【対策のポイント】

農業者の生産性を飛躍的に向上させるためには、近年、技術発展の著しいロボット・AI・IoT等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装を図ることが急務である。このため、現在の技術レベルで最先端の技術を生産現場に導入・実証することによりスマート農業技術の更なる高みを目指すとともに、社会実装の推進に資する情報提供等を行う取組みを支援する。

【予算額】505百万円（新規）

【事業内容】

1. 最先端技術の導入・実証
2. 社会実装の推進のための情報提供

【お問い合わせ】農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課（03-6744-7043）

.....

☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）  
企業主導フェーズ：NexTEP-Aタイプ  
（JST）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成31年3月29日締切

.....

☆平成30年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ  
（JST）

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成31年3月29日締切（第3回）

.....  
☆平成 30 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

.....  
☆平成 30 年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!)

(総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合 (ICT×○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成 30 年 4 月 12 日～平成 31 年 3 月 29 日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください（下記 URL の後半部分）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○つばき茶の開発

長崎県の五島列島には日本有数の規模のツバキ林があります。地元自治体では、地域活性化のためにツバキ製品の開発等に力を入れており、長崎県農林技術開発センター、長崎県立大学、長崎大学は共同して新たな特産品として「ツバキ葉混合発酵茶」を開発・製品化しました。ツバキ葉と茶葉の混合比率、揉捻時間、酸化時間を様々に変えて、香味、マルターゼ阻害率の高い条件を調査したところ、混合比率 1:9、揉捻時間 20 分、酸化時間 0 時間（酸化工程の省略）が最適であることが分かりました。ツバキ葉混合発酵茶を餌に混ぜてマウスに摂食させたところ、血糖値はほとんど上昇しませんでした。ヒト試験でもツバキ葉混合発酵茶は、血糖値上昇を抑制することが分かりました。これらの試験は、平成 20～22 年度の農林水産省競争的研究資金（実用技術開発事業）により行われました。

・宮田(2018)ツバキ茶と茶葉を混合揉捻したツバキ葉混合発酵茶「五島つばき茶」の製法と食後血糖値上昇抑制作用、食品と容器、59(9)：556-561.

・宮田ら(2015)総説：ツバキ葉と茶葉を混合揉捻したツバキ混合発酵茶「五島つばき茶」の製法と機能性、日本食品工学会誌、62(3)：123-129.

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/nskkk/62/3/62\\_123/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/nskkk/62/3/62_123/_pdf)

☆園芸関係（果樹）

○晩柑カンキツ「せとみ」の長期貯蔵による出荷期間の延長

山口県農林総合技術センターは、平成 16 年に品種登録された山口県オリジナル品種の晩生カンキツ「せとみ」の長期貯蔵試験を実施しています。この試験は、平成 28 年度から実施している革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）の中で取り組まれています。その目的は、本品種の栽培面積の拡大が見込まれることから、販売ピークの分散、国産柑橘の端境期における有利販売を狙っています。本技術のポイントは、低温下（8℃）で、鮮度保持フィルム「P-プラス」、結露防止フィルム「F」で包装するのが適していること、及び夏季出荷において出荷時の昇温馴化処理を組み合わせ、個包装することにより品質低下を最小限に防ぐということです。詳しくは、下記の雑誌記事をご覧ください。

- ・西岡真理(2018)晩生カンキツ「せとみ」の長期貯蔵による出荷期間の延長、果実日本、73 (12) :66-70.

#### ☆森林・林業

○シカを目撃情報の提供システム「シカ情報マップ」及び獣害対策支援アプリ「やるシカない！」の開発と活用

愛知県森林・林業技術センターは、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所、株式会社マップクエスト、NPO 法人穂の国森林探偵事務所と連携し、シカによる農林業被害対策のためのシステムとアプリケーションを開発しました。

「シカ情報マップ」は、シカを目撃情報や被害情報をスマートフォンやインターネットに接続したパソコン等から報告し、地図上に表示するシステムです。また、「やるシカない」は、シカによる獣害対策のための無料アプリケーションであり、(1)シカ密度の現状把握マップの表示（5×5km メッシュ単位）、(2)シカ出現予測マップの表示（250×250m メッシュ単位）、(3)シカ目撃地点、シカ被害地点の表示（シカ情報マップに寄せられた情報の表示）の機能があります。このような機能を利用することにより、シカ柵の設置場所や捕獲場所の決定、被害予防、さらには交通事故対策等にも役立てられます。本システムは、主に愛知県の中山間地で活用されています。

- ・愛知県ホームページ：シカを目撃情報の提供システム「シカ情報マップ」  
獣害対策支援アプリ「やるシカない！」

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shinrin-ringyo-c/deer-existence-app.html>

- ・石田・江口（2018）シカの森林被害の軽減化に向けて～実態調査と ICT の活用～、現代林業、625(7)：46-50.

.....  
編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は本研究会の活動にご参加、ご協力いただき、誠にありがとうございました。本年の皆様のご繁栄を心からお祈り申し上げますとともに、本研究会の活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年 5 月 1 日には、皇位継承により平成から新元号に改元されます。4 月 1 日に新元号が発表されますので、コンピュータの設定や文書表示の変更などが必要となります。また、10 月には消費税の 2%アップが予定されており、レジスター等の変更、キャッシュレス決済に要する機器の新設等、何かと諸経費がかさみます。庶民にとっては、消費税増税によって可処分所得がますます少なくなり、消費低迷の原因ともなりかねません。更に、米中貿易戦争のリスクもあり、今年の経済の先行きは予断できない状況です。本年は猪年ですが、景気上昇に猪突猛進というわけにはいかないようです。

ところで、最近読んだ本に、小杉俊哉著「リーダーシップ 3.0～カリスマから支援

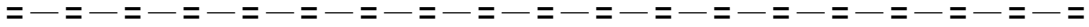
者へ〜」（祥伝社：2013年初版発行）があります。筆者の小杉氏は、NEC、マッキンゼー&カンパニー、アップルコンピュータ人事総務本部長等を歴任し、現在、慶応義塾大学 SFC 研究所上席研究員と合同会社 THS 経営組織研究所代表社員を兼ねるなど、多様な組織を経験されています。著者は、リーダー像は歴史的にみると、時代的背景、組織のあり方、フォロワーとの関係によって、様々に変化してきており、中央集権的な権力者のリーダーシップ 1.0 から、同じ権力者でも分権を指向した 1.1 の時代、調整者の役割を指向した 1.5、変革者の役割を指向した 2.0 があり、現在は、支援者としてのリーダーシップ 3.0 の時代であるとしています。3.0 のリーダーの役割は、メンバーと向き合い、動機付け、主体性をもって自律的に働くように支援することにあるとしています。また、いかにして自社の収益を上げるかの How を知っていることよりも、地球や人々に対して、何をなすべきかという What を追求していくことが企業の持続可能性を高めていくのに必要であると述べています。日本の名だたる企業がリーダーのミスリードにより、程なくして窮地に陥るのを目の当たりにするにつけ、改めて、リーダーの有り方が問われています。リーダーシップを考えていく上で、本書は様々なリーダーのタイプを知ることができ、参考になると思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

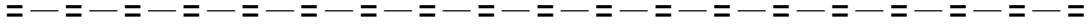
E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>



東海生研 ～メールマガジン 第170号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会



\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆平成30年度 食品安全セミナー (2月) (2月13日)
- 2. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 3. 競争的研究資金について
  - ☆平成31年度 イノベーション創出強化研究推進事業 (農林水産省)
  - ☆平成31年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産省)
  - ☆平成31年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省)
  - ☆地域内エコシステム技術開発・実証 (木材需要の創出・輸出力強化対策 (地域内エコシステム構築事業)内) (林野庁)
  - ☆木材需要の創出・輸出力強化対策 (地域内エコシステム構築事業 (木材のマテリアル利用技術開発事業)) (林野庁)
  - ☆スマート林業構築実践事業 (森林作業システム高度化対策) (林野庁)
  - ☆平成31年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム (文部科学省)
  - ☆平成31年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
  - ☆平成31年度 研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (NEDO)
  - ☆平成31年度新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業 (NEDO)
  - ☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
    - 企業主導フェーズ: NexTEP-A タイプ
  - ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)
  - ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
  - ☆e-ASIA 共同研究プログラム 平成31年度材料 (ナノテクノロジー) 及び 「農業 (食料)」 分野」 共同研究課題募集 (JST)
  - ☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
  - ☆民間の競争的研究資金
- 4. 新技術情報について



◆ 1 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー(2月)」

- 【開催日時】平成31年2月13日 (水) 13時30分～16時
- 【場所】東海農政局1階第1会議室 (名古屋市中区三の丸1-2-2)
- 【主催】東海農政局
  - 第一部 13:30～14:05

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部 消費生活課職員

第二部 14:20～15:50

「食品添加物について」

講師：名古屋市 食品衛生検査所職員

【開催案内】

<http://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/attach/pdf/index-23.pdf>

【参加】参加費無料、定員先着40名になり次第締め切られます。

【参加申込】上記「開催案内」裏面の参加申込書にご記入の上、FAX又はインターネット、又は電話でお申込み下さい(申込期限：1月12日)。

【お問い合わせ】消費・安全部消費生活課 担当者：森(啓)、奥川、青木様  
代表：052-201-7271(内線2810)ダイヤルイン：052-223-4651  
FAX：052-220-1362  
会場案内図は、上記の「開催案内」をご覧ください。

.....  
☆平成30年度「食品安全セミナー(3月)」

【開催日時】平成31年3月13日(水)13時30分～16時

【場所】東海農政局1階第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】東海農政局

第一部 「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部 消費生活課職員

第二部 「野草や山菜などの自然毒について」

講師：岐阜県保健環境研究所職員

## ◆2◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記URLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会(JATAFF)が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

☆平成30年度 農林水産省 高度先端型技術実装促進事業シンポジウム  
～農業における先端技術活用の加速化を目指して～

このシンポジウムでは、農業における先端技術活用の有効性や課題を多面的に捉え、その加速化に向けたこれからの展望について論議を深めます。

【開催日時】平成31年3月8日(金)13:00～16:40

【開催場所】日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール(地下1F)

<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>

【プログラム】

第一部 講演：異なる視点で捉える先端技術活用の現状と展望

- 1) 「先端技術メーカーの視点で／先端技術の活用で強い農業を実現する」  
横山 恵一 氏 (株式会社オプティム 執行役員)
- 2) 「先端技術利用者の立場から／先端技術の効用と課題」  
山崎 能央 氏 (農業法人株式会社ヤマザキライス 代表取締役)
- 3) 「オランダ農業に照らして／オランダの生産者が先端技術を導入する理由」  
紀平 真理子 氏 (maru communicate 代表)
- 4) 「農業コンサルタントとして／コンサルティングで農業を強くする」  
麻生 英文 氏 (株式会社 Delphy Japan シニアコンサルタント)

第二部 補助事業発表：高度先端型技術の実装促進取組状況

- 1) 「スマート農業時代における経営分析クラウドの実証活動と展開」  
生駒 祐一 氏 (テラスマイル株式会社 代表取締役)
- 2) 「スマート農業時代における養豚経営支援システムの実証活動と展開」  
神林 隆 氏 (株式会社 Eco-Pork 代表取締役)

第三部 総合討論：「農業における先端技術の活用を加速するための課題と方向性」

ファシリテーター 三原 洋一 氏 (NKアグリ株式会社 代表取締役社長)

【参加費】 無 料

【申込方法】 事務局 (JATAFF) の HP からお申し込みください。

<https://www.jataff.jp/event/smart.html>

申込締切：平成 31 年 3 月 5 日 (火)

【事務局】 公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会 (JATAFF)

産学連携事業部 石脇 尚武

〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目 9-13 三会堂ビル 7F

メールアドレス / [n-ishiwaki@jataff.jp](mailto:n-ishiwaki@jataff.jp)

TEL / 03-3586-8644 FAX / 03-3586-8277

<http://www.jataff.jp/>

【関連イベント】 前日 3 月 7 日 (木) に同じ会場にて

「JAISA スマートアグリ・シンポジウム 2019 in 東京」開催

[https://jaisa.org/smartagri\\_symposium\\_2019\\_tokyo/](https://jaisa.org/smartagri_symposium_2019_tokyo/)

◆ 3 ◆ 平成 30～31 年度競争的研究資金等について

☆平成 31 年度イノベーション創出強化研究推進事業(農研機構・生研支援センター)

<http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/brain/innovation/news/2018/120984.html>

分野等：従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出していくイノベーションの創出に向け、「知」の集積と活用の場による研究開発を重点的に推進する提案公募型の研究開発事業「イノベーション創出強化研究推進事業」を推進することとし、公募により研究を委託する。

予算額：4,080(4,132)百万円 (継続分を含む)

公募開始：平成 31 年 1 月 15 日 (火)

公募締切：平成 31 年 2 月 15 日 (金)

☆平成 31 年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産省 (技術会議事務局))

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/190122\\_12.html](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/190122_12.html)

分野等：

1. 現場ニーズ対応型研究

- 1) 直播栽培拡大のための雑草イネ等難防除雑草の省力的防除技術の開発
- 2) 南西諸島の気候風土に適した高収益品目の検討及び栽培技術体系の確立

- 3) 畑作物生産の安定・省力化に向けた湿害、雑草害対策技術の開発
- 4) 高品質茶生産拡大のための適期被覆技術体系の確立
- 5) 繋ぎ牛舎でも利用できる高度な搾乳システムの開発
- 6) 国内主要養殖魚の重要疾病のリスク管理技術の開発
- 7) 森林・林業、水産業分野における気候変動適応技術の開発（流木災害防止・被害軽減技術の開発）
- 8) 野生鳥獣及び病害虫等被害対応技術の開発（農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発）

2. 基礎的・先導的研究

- 1) ゲノム編集技術を活用した農作物品種・育種素材の開発

公募期間：2019年1月22日～3月13日

☆平成31年度官民連携新技術研究開発事業（農林水産省（農村振興局））

[http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/190201\\_6.html](http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/190201_6.html)

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：2019年2月1日～3月29日

☆地域内エコシステム技術開発・実証（木材需要の創出・輸出力強化対策

（地域内エコシステム構築事業）内）

（林野庁）

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/31koubo\\_1/31mhk0108.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/31koubo_1/31mhk0108.html)

分野等：地域の森林資源の持続的な活用を図る「地域内エコシステム」の構築に資する木質バイオマスのエネルギー利用システム（小規模な熱利用や熱電併給等）の普及に必要となる小規模な技術開発・改良、実証等を行う。

公募期間：平成31年2月4日～3月1日

☆木材需要の創出・輸出力強化対策（地域内エコシステム構築事業

（木材のマテリアル利用技術開発事業））

（林野庁）

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/31koubo\\_1/31mhk0109.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/31koubo_1/31mhk0109.html)

分野等：

1. 新素材製造・利用技術開発
2. 竹のマテリアル利用に向けた効率的な竹材生産技術の開発

公募期間：平成31年2月4日～3月1日

☆スマート林業構築実践事業（森林作業システム高度化対策）

（林野庁）

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/31koubo\\_1/31mhk0119.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/31koubo_1/31mhk0119.html)

分野等：地理空間情報やICT等の先端技術を積極的に導入し、森林施業の効率化・省力化や需要に応じた木材生産や木質バイオマスの収集・運搬等を可能とする新たな林業（スマート林業）の実現に向けた林業機械の開発・改良によるその実用化に向けた取組を支援する。

公募期間：平成31年2月4日～3月1日



.....  
☆平成 31 年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム (文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/chiiki/program/1412482.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chiiki/program/1412482.htm)

分野等：コア技術等を有する地域において、コア技術等の性質等を踏まえて、事業化を支える人材及びそのチームを設置し、様々な外部環境・内部環境分析を踏まえて事業化戦略・計画を策定し、関係者が一丸となって各プロジェクトを遂行し、当該プロジェクトの出口としてマイルストーンに基づく次のフェーズの資金（又は売上）の獲得等を目指す取組を支援する。

公募期間：平成 31 年 1 月 11 日～3 月 22 日

.....  
☆平成 31 年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2019/190128mono.htm>

分野等：1. デザイン開発、2. 情報処理、3. 精密加工、4. 製造環境、5. 接合・実装、6. 立体造形、7. 表面処理、8. 機械制御、9. 複合・新機能材料、10. 材料製造プロセス、11. バイオ、12. 測定計測

公募期間：平成 31 年 1 月 28 日～4 月 24 日

.....  
☆平成 31 年度 研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100199.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100199.html)

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等と NEDO が協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：平成 31 年 1 月 25 日～2 月 25 日

.....  
☆平成 31 年度新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業(NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100194.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100194.html)

分野等：

1. 太陽光発電、風力発電、水力発電、地熱発電、バイオマス利用、太陽熱利用、その他未利用エネルギー分野。
2. 再生可能エネルギーの普及、エネルギー源の多様化に資する新規技術（燃料電池、蓄電池、エネルギーマネジメントシステム等）。

公募期間：平成 31 年 2 月 4 日～3 月 5 日

.....  
☆平成 30 年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切

.....  
☆平成 30 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切（第 3 回）

☆平成 30 年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!)

(総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合 (ICT×○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept：概念検証) に取り組む技術開発を行う。

公募期間：平成 30 年 4 月 12 日～平成 31 年 3 月 29 日

☆「e-ASIA 共同研究プログラム平成 31 年度「材料 (ナノテクノロジー)」及び「農業 (食料)」分野」共同研究課題募集 (JST)

[http://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce\\_easia\\_jrp\\_8th.html](http://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce_easia_jrp_8th.html)

分野等：

1. 材料 (ナノテクノロジー) 分野：革新的材料
2. 農業 (食料) 分野：アジアの動物遺伝資源の保存、改良と活用

公募期間：平成 31 年 1 月 18 日～5 月 14 日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆「アグリサーチャー」に対話型検索システムが試験導入されました！

「アグリサーチャー」は、農林水産省が設けた最新の研究成果と研究者の連絡先を簡単に検索できる情報公開 (Web) システムです (下記の URL)。

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/>

「アグリサーチャー」の利便性を一層向上させ、利用拡大を図るために、平成 31 年 1 月 17 日からロボットとの対話形式による検索システム (チャットボット) の試験導入が開始されました。この試行には「line」登録が必要です。本格運用は 4 月に予定されています。

<http://www.affrc.maff.go.jp/agresearcher/news/310116chatbott-HP.pdf>

・農林水産省 HP:アグリサーチャー・チャットボットの概要 (使い方)

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/20190111lag\\_chatbott\\_howtouse.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/20190111lag_chatbott_howtouse.pdf)

☆米関係

○三重県における飼料用（知事特認）品種「あきだわら」の多収栽培法

飼料用米は、主食米の生産調整のための補助金が打ち切られたことに伴い、需給を安定化させる施策として導入されましたが、畜産農家にとっては、飼料米はトウモロコシの代替え飼料として、栄養価と価格に遜色が無く比較的価格が安定した地元産飼料として歓迎されています。従来、輸入飼料として地域外から購入していたものを地域内から購入できれば資金が地域内で循環することにもなります。

三重県において飼料用多収品種として知事特認を受けている品種「あきだわら」は、まだ県内における作付実績が乏しく、多収を実現するための知見も乏しいようです。そこで、三重県農業研究所は、「あきだわら」の多収栽培法について、今回は特に施肥技術を中心に開発しました。

- ・三重県農業研究所 HP:平成 28 年度三重農研・成果情報（詳細版）  
<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000768432.pdf>
- ・農林水産省 HP:飼料用米関連情報  
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/siryouqa.html>

☆野菜関係

○アオジソ新品種「愛経 3 号」を開発

愛知県農業総合試験場は愛知県経済農業協同組合連合会との共同研究で、アオジソの新品種「愛経 3 号」を開発しました。愛知県は全国一のアオジソの生産県となっています。現在栽培されている品種・系統は、低温期に葉が波打ったり、葉裏が赤色に着色しやすい点が問題となっています。今回開発した新品種「愛経 3 号」は、波打ちが少ないため出荷調整が容易であり、着色が少なく品質が向上し、従来品種に比べ、収量が 1 割増加するとともに、重要病害であるシソ斑点病に抵抗性を持つことが特長となっています。（記者発表内容を掲載）

- ・愛知県農業総合試験場 HP:2018 年十大研究成果～アオジソ新品種「愛経 3 号」を開発（詳しい内容）  
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/284082.pdf>

☆果物関係

○微細孔フィルムを段ボール箱の内袋とすることで春節に「富有」をタイへ輸出できます

農林水産物・食品の輸出促進は、「攻めの農林水産業」の中で重要な位置を占めています。カキの輸出については、植物検疫及び残留農薬の問題をクリアしたうえで、鮮度保持技術が重要課題となっています。カキの輸出について、和歌山県からの東南アジア向けの輸出実績が最も多くなっています。米国、豪州へも輸出が解禁される状況にあり、長距離輸送に耐えられる鮮度保持技術の向上が求められています。

カキの算出額が多い岐阜県の農業技術センターは、「富有」を春節に香港に輸出するための長期貯蔵技術を開発するとともに、輸出後の品質管理方法を検討するため、在庫後の日持ち性と温度の関係を調査し、最適な品質管理方法を明らかにしました。

- ・岐阜県農業技術センターHP:研究成果（2018 年度）  
[http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/kenkyuseika/seika\\_h28-2.pdf](http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/kenkyuseika/seika_h28-2.pdf)

.....

## 編集後記

去る1月29日、30日に開催しました「アグリビジネス創出フェア in 東海」では大変多くの方々のご来場をいただきありがとうございました。改めてお礼申し上げます。立春を過ぎましたが、いよいよ寒さが増してきました。体調はいかがでしょう。インフルエンザが大変流行しているようですので、ぜひ体調の管理にお気を付けください。

さて、人口減社会の消費と行動について述べられている、三浦 展（あつし）著「中高年シングルが日本を動かす」（朝日新書：2017年11月30日第1刷発行）を読みました。著者はマーケティングアナリストで、消費社会・社会デザイン研究者として時代を予測し、大手企業への助言をされています。

中高年を50歳以上とすると、その数が2030年には6259万人にもなると推定しており、日本は超高齢社会だけではなく、超中高年社会になっている。しかもこの中高年の中で未婚や死別、離婚の人口が増えている。中高年の単身世帯が増え続ける日本で、その単身世帯の消費や支出動向をみることは、企業の商品開発に欠かせないばかりでなく、ライフスタイルの変化や社会全体の仕組みが変化していく中での新しい暮らし方を知ることが出来ると著者は分析しています。

これからの日本で中高年シングルが増えることは、たとえシングルではなく、誰かと同居していても、自分のことは自分でケアしなくてはならない「セルフケア社会」であり、どうやら元気なうちはずっと働き続けられないといけない時代になってきていると分析しています。だからこそ、健康がますます重要になり、病気やケガを予防することが重要視されるだろうとしています。また、それぞれの人々にそれぞれの幸福があるように、幸福のイメージも多様化してきていると見ています。ライフスタイルの多様化であり、幸福の多様化の時代なのだと述べています。

幸福のイメージの多様化、ライフスタイルの多様化の記述で、ふと思い出したことがあります。本書の中で「男性シニア（60歳以上）の分析」について述べられていますが、子供の頃にアメリカ風の食べ物を時々食べたことで幸福を味わったことを覚えています。そして、シニアの今でもハンバーグなどを食べた時に、とても幸福を感じることを思い出しました。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（\*を@に書き換えてください）

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

平成31年3月11日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第171号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆平成30年度 食品安全セミナー (3月) (3月13日)
  - ☆HACCPの普及に向けた説明会 (3月20日)
- 2. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 3. 競争的研究資金について
  - ☆平成31年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産省)
  - ☆平成31年度安全な農林水産物安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究委託事業 (農林水産省)
  - ☆平成31年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省)
  - ☆平成31年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム (文部科学省)
  - ☆平成31年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
  - ☆平成30年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
  - 企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ
  - ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)
  - ☆平成30年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
  - ☆平成31年度 e-ASIA 共同研究プログラム「材料 (ナノテクノロジー)」及び「農業 (食料)」分野共同研究課題募集 (JST)
  - ☆平成30年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
  - ☆平成31年度 戦略的省エネルギー技術革新プログラム (NEDO)
  - ☆民間の競争的研究資金
- 4. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成30年度「食品安全セミナー(3月)」

【開催日時】平成31年3月13日(水) 13時30分～16時

【場所】東海農政局1階第1会議室(名古屋市中区三の丸1-2-2)

【主催】東海農政局

第一部 「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部 消費生活課職員

第二部 「野草や山菜などの自然毒について」

講師：岐阜県保健環境研究所 食品安全検査センター

主任研究員 南谷 臣昭 氏

【プレスリリース】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/190218.html>

【開催案内】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/190218-1.pdf>

【参加】参加費無料、定員先着 40 名になり次第締め切られます。

【参加申込】上記「開催案内」裏面の参加申込書にご記入の上、FAX 又はインターネット、又は電話でお申込み下さい(申込期限：3 月 11 日)。

【お問い合わせ】消費・安全部消費生活課 担当者：森（啓）、奥川、青木様  
代表：052-201-7271(内線 2810) ダイヤルイン：052-223-4651  
FAX：052-220-1362  
会場案内図は、上記の「開催案内」をご覧ください。

.....  
☆HACCP の普及に向けた説明会 (東海農政局)

東海農政局は、HACCP に沿った衛生管理の制度化等に対応するため、食品製造等事業者、調理、販売等に取り組む農林漁業者をはじめとする食品等事業者を対象に、HACCP の普及に向けた説明会を下記の通り開催します。

【開催日時】平成 31 年 3 月 20 日（水）13 時 30 分～16 時 30 分

【開催場所】名古屋国際センター別棟ホール（名古屋市中村区那古野 1-17-1）  
開催案内図(下記 URL の参加申込書に案内図が有ります)

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/kigyo/attach/pdf/190225-1.pdf>

【プレスリリース（開催案内）】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/kigyo/190225.html>

【内容】

- (1) HACCP に沿った衛生管理の制度化について（食品衛生法関係：東海北陸厚生局）
- (2) HACCP 普及に向けた取組について（HACCP 支援法関係：東海農政局）
- (3) 自治体における HACCP に関する取組について（愛知県）
- (4) HACCP 支援法に基づく融資について（日本政策金融公庫）
- (5) GAP について（東海農政局）

【申込み】先着 180 名、参加費無料、上記プレスリリースの URL から参加申込書を取り出してファックスで申し込むか、インターネットによりお申し込みください。

【対象者】食品等事業者、関連業界団体、食品の加工、調理、販売に取り組む農林漁業者

【お問い合わせ】東海農政局経営・事業支援部食品企業課 担当者：小林様、秋山様  
代表 052-201-7271（代表） ダイヤルイン：052-746-6430  
ファックス：052-201-1703

## ◆ 2 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

## ◆ 3 ◆ 平成 30～31 年度競争的研究資金等について

☆平成 31 年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産省 (技術会議事務局))  
[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/190122\\_12.html](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/190122_12.html)

分野等 :

1. 現場ニーズ対応型研究
  - 1) 直播栽培拡大のための雑草イネ等難防除雑草の省力的防除技術の開発
  - 2) 南西諸島の気候風土に適した高収益品目の検討及び栽培技術体系の確立
  - 3) 畑作物生産の安定・省力化に向けた湿害、雑草害対策技術の開発
  - 4) 高品質茶生産拡大のための適期被覆技術体系の確立
  - 5) 繋ぎ牛舎でも利用できる高度な搾乳システムの開発
  - 6) 国内主要養殖魚の重要疾病のリスク管理技術の開発
  - 7) 森林・林業、水産業分野における気候変動適応技術の開発 (流木災害防止・被害軽減技術の開発)
  - 8) 野生鳥獣及び病害虫等被害対応技術の開発 (農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発)
2. 基礎的・先導的研究
  - 1) ゲノム編集技術を活用した農作物品種・育種素材の開発

公募期間 : 2019 年 1 月 22 日 ~ 3 月 13 日

☆平成 31 年度安全な農林水産物安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究  
委託事業 (農林水産省 (消費・安全局))

<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/gijyutu/190214.html>

分野等 :

1. 生産資材に関する課題
  - ・堆肥中のクロピラリドによる生育障害を防ぐための技術開発
2. 動物衛生に関する課題
  - ・インターフェロングammaッセイを用いた牛結核病の診断法の導入
  - ・イノシシにおける豚コレラウイルスの動態解明及び伝播リスクの検証
3. 植物防疫に関する課題
  - ・*Xylella fastidiosa* の宿主範囲及び検定方法に関する研究

公募期間 : 平成 31 年 2 月 14 日 ~ 3 月 25 日

☆平成 31 年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省 (農村振興局))

[http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/190201\\_6.html](http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/190201_6.html)

分野等 :

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間 : 2019 年 2 月 1 日 ~ 3 月 29 日

☆平成 31 年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム (文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/chiiki/program/1412482.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chiiki/program/1412482.htm)

分野等 : コア技術等を有する地域において、コア技術等の性質等を踏まえて、事業化を支える人材及びそのチームを設置し、様々な外部環境・内部環境

分析を踏まえて事業化戦略・計画を策定し、関係者が一丸となって各プロジェクトを遂行し、当該プロジェクトの出口としてマイルストーンに基づく次のフェーズの資金（又は売上）の獲得等を目指す取組を支援する。

公募期間：平成 31 年 1 月 11 日～3 月 22 日

☆平成 31 年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2019/190128mono.htm>

分野等：1. デザイン開発、2. 情報処理、3. 精密加工、4. 製造環境、5. 接合・実装、6. 立体造形、7. 表面処理、8. 機械制御、9. 複合・新機能材料、10. 材料製造プロセス、11. バイオ、12. 測定計測

公募期間：平成 31 年 1 月 28 日～4 月 24 日

☆平成 30 年度研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

企業主導フェーズ：NexTEP-A タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html>

分野等：企業ニーズを踏まえた企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切

☆平成 30 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切 (第 3 回)

☆平成 30 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：平成 31 年 3 月 29 日締切 (第 3 回)

☆平成 31 年度 e-ASIA 共同研究プログラム「材料 (ナノテクノロジー)」及び「農業 (食料)」分野」共同研究課題募集 (JST)

[http://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce\\_easia\\_jrp\\_8th.html](http://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce_easia_jrp_8th.html)

分野等：

1. 材料 (ナノテクノロジー) 分野：革新的材料
2. 農業 (食料) 分野：アジアの動物遺伝資源の保存、改良と活用

公募期間：平成 31 年 1 月 18 日～5 月 14 日

☆平成 30 年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (I-Challenge!)

(総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000239.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000239.html)

分野等：ICT そのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野と ICT との融合 (ICT×○○) を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept : 概念検証) に取り組む技術開発を行う。

公募期間：平成 30 年 4 月 12 日～平成 31 年 3 月 29 日



.....  
☆平成 31 年度 戦略的省エネルギー技術革新プログラム (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/DA2\\_100254.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/DA2_100254.html)

分野等：現行の「省エネルギー技術戦略」に掲げる「重要技術」を中心に、高い省エネルギー効果が見込まれる技術開発を対象として助成する。

公募期間：平成 31 年 2 月 20 日～3 月 26 日  
.....

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください。

「農林水産・食品分野の公募情報」:

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-2508>

#### ◆ 4 ◆ 新技術情報について

☆小麦・大豆・トウモロコシ・米の関係

○世界の穀物収穫面積の 3 分の 1 で 3 ヶ月前に収量が予測可能に！

地球温暖化等に伴う異常気象により世界の穀物生産が不安定化しつつあります。輸出国での不作は、国際穀物市場価格の値上がりや、食糧の確保に困難をもたらします。異常気象に伴う食糧状況の悪化は、大量の穀物を輸入する我が国のみならず、特に、開発途上地域では食糧確保の上で大きなリスクとなっています。

農研機構農業環境変動研究センターは、APEC 機構センター (APCC) と共同で、穀物の世界的な収量変動を予測する方法を新たに開発しました。すなわち、小麦、大豆、トウモロコシ、米の収量を、前年からの変動という形で、世界の収穫面積の約 3 分の 1 で、収穫 3 ヶ月前に予測することが可能となりました。この方法を用いた全世界対象の収量変動予測サービスを国際機関向けに開発しており、2019 年～2020 年に試験運転が予定されています。

・農研機構プレスリリース：研究成果

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/niaes/120985.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niaes/120985.html)

☆病害虫関係

○熱だけでイチゴ苗の病害虫をまとめて防除

～蒸熱処理防除装置の小型実用化と利用マニュアル作成～

イチゴ栽培では、苗を本圃に持ち込む時に、出来る限り病害虫がいないようにすることが、その後の病害虫管理を楽にし、被害を回避する上で重要となっています。しかし、最近では、農薬によっては抵抗性を発達させた病害虫が出現していることもあり、防除が難しくなっています。このため、農薬に頼らずに病害虫を防除する方法が開発されていますが、高温の蒸気によって病害虫を死滅させる蒸熱処理もその 1 つです。従来の蒸熱処理防除装置は大型で高価でしたが、農研機構は、株式会社 FTH 等と共同で小型の蒸気処理防除装置を開発しました。この処理装置をイチゴ生産者が一般的に保有するプレハブ冷蔵庫内に設置して、1 回に千株の苗を 1 時間、蒸熱処理することにより病害虫を除去できます。高温によるイチゴのダメージを回避する正しい蒸熱処理方法と、処理後の防除方法を分かりやすく開発したマニュアルの開発も行われています。

・国立研究開発法人農研機構 HP: プレスリリース (研究成果)

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/karc/078726.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/078726.html)

・国立研究開発法人農研機構 HP: プレス資料 (マニュアルを含む)

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/files/karc\\_press\\_20171213.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/files/karc_press_20171213.pdf)

#### ☆水産関係

- 閉鎖循環システムを用いてサツキマスの採卵に成功  
～海水養殖に適したマス類の育種が可能に～

近年、ニジマスなどのマス類の海面養殖が、水温の低い冬期に行われることが多くなっています。水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所は、マス類の海面養殖に適した品種の作出や種苗の安定供給に繋げる研究開発を行いました。すなわち、実験モデルとして、アマゴの降海型であるサツキマスを対象に、冬期に海水飼育したサツキマスを5月に閉鎖型循環システム水槽に移行して、海水から淡水環境に馴化させました。そして、淡水での飼育を継続し、10月に成熟魚から人工授精により受精卵を得て、翌年1月からふ化した種苗の飼育を行うことができました。これにより、スモルト(淡水から海水に馴化しやすい個体の外観的特徴)化しやすく、海水移行した時に致死しにくく、海面養殖での成長が速く、淡水に馴化しやすい品種の育成を行いやすくなりました。更に、このことにより、海水飼育したサツキマスをふ化場まで移動せずに近くの閉鎖型循環システム水槽に移せること、海水由来の疾病を淡水域に持ち込む心配がなくなること、淡水を豊富に利用できない場所でもサツキマスの親魚を育て、採卵できるようになることなどの効果も得られました。

・国立研究開発法人 水産研究・教育機構 HP: プレスリリース

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2018/20181012/index.html>

.....

#### 編集後記

3月に入り、日増しに春の日差しが強くなってきました。8年前の3月11日に東日本大震災が起こり、現在も避難生活者5万4千人、プレハブ仮設住宅での生活者5千人、原発事故で双葉町、大熊町、飯館村の広い範囲が帰還困難地域となっており、また、福島第一原発の廃炉作業が見通せず、汚染水を貯蔵するタンクが敷地内に納まり切れないレベルに達しようとしていることなど課題が山積しています。この巨大災害と過酷事故を風化させることなく、厳しい現実を直視していく必要があります。

ところで、最近読んだ本に、デービット・アトキンソン著「日本人の勝算～大変革時代の生存戦略～」(東洋経済新報社:2019年1月初版発行)があります。筆者は、世界的金融グループであるゴールドマン・サックス社で金融調査室長として日本の不良債権の実態を暴くレポートを発表し注目を浴びました。その後、退社して国宝・重要文化財の補修を手掛ける小西美術工藝社に入社し、現在は同社会長兼社長に就任しており、「新・生産性立国論」など多くの著書があります。

日本は今、急激な高齢化、人口減少という人類史上類を見ない時代に突入しつつあり、大きなパラダイムシフトが起きつつあります。このまま行くと日本には「勝算」はなく、近い将来、日本は三流国に成り下がってしまうと述べています。高齢化と人口減少は経済成長を阻害する大きな要因であり、今後、社会保障制度の維持、巨額の国の債務による破綻を回避するために、どのような政策を採るべきかについて、著者は国内のみならず、118名にのぼる海外エコノミストによる日本経済の分析に関する多くのレポートを読破してこの本を書いています。高齢化、人口減少の経済成長に与

える負のインパクトについては、本メルマガの昨年9月号でご紹介した藻谷浩介著「デフレの正体～経済は『人口の波で動く』～」でも詳しく述べられていますが、人口の早急な回復が困難な下で、どのような方策が考えられのかについて、これまでの常識にとらわれない考え方が求められています。日本は先進国の中では「人材の質の評価」が高いにもかかわらず、労働生産性、最低賃金、輸出比率、女性の社会的経済的地位などは最低のレベルにあるので、生産性向上の伸びしろが大きいとしています。これらを改善し、高齢化・人口減少のマイナス効果を打ち消すだけの生産性の向上を図っていくことが必要と述べています。本書は、日本経済の現状と展望を示し、見通せない国の将来を切り開く問題提起を行っており、大変参考になると思います。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>